

令和5年度厚生労働省委託
「EBPM推進に係る調査研究等一式」事業
第1回 厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会

議事次第

日 時 令和5年10月11日(水) 13:00～15:00

場 所 WEB 会議形式にて開催

- 議 事
- 1 開会
 - ・はじめに
 - ・委員紹介
 - ・座長等の選定
 - 2 EBPM実践の取組状況の検証
 - 3 その他

配付資料

- 資料1 厚生労働省におけるEBPMの実践の取組状況について
資料2 ロジックモデルの作成・点検について
資料3 重点フォローアップ事業の選定基準及び対象事業について

参考資料

- 参考1 厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会開催要綱
参考2 ロジックモデル点検結果コメントシート
参考3 ロジックモデル記入要領
参考4 令和5年度ロジックモデル記入上の注意
参考5 厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会検証結果取りまとめ
(令和4年度)における今後の課題への対応

厚生労働省におけるEBPMの実践の取組状況について

令和5年度 第1回 厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会
(令和5年10月11日)

厚生労働省政策統括官付政策立案・評価担当参事官室

内閣官房行政改革推進本部事務局の取組方針 (令和5年4月10日内閣官房行政改革推進本部事務局)

- 行政事業レビューにおけるEBPMの実践
 - ・ 政策の立案・改善や予算編成プロセスといった**意思決定プロセス**で予算事業で実施されている**行政事業レビューを活用**する。
 - ・ 各府省において、**レビューシート全体の品質管理を進めていく**。
 - ・ 各府省は、重点フォローアップ対象事業の改善結果と、府省内で選定・表彰した優良事業改善事例を、EBPM推進委員会に報告する。
 - ・ **より発展的な効果検証を設計・実施**し、その結果を事業の改善に効果的に活用するなど、**事業の効果を追求する取組を行うことを推奨**する。
- 行政事業レビュー以外の政策プロセス（規制の立案・評価・見直し、税制改正プロセスにおける税制当局への説明や各種計画・施策パッケージ等の立案・見直し）においても、EBPMの手法を活用する。
- **ロジックモデル**は、政策課題とその現状に対し、政策手段から目的までの「経路」を端的に図示化するものであり、政策形成・ブラッシュアップ、対外的なコミュニケーション、モニタリング・効果検証に有用であることから、**政策の立案・実施・見直しの各段階において活用することを推奨**する。

厚生労働省における令和5年度の取組方針

各種政策プロセス（政策の立案・評価・見直し）においてEBPMを実践し、より効果的な政策の立案・改善に努める。特に、**予算事業については行政事業レビューシート及びロジックモデルを活用**する。

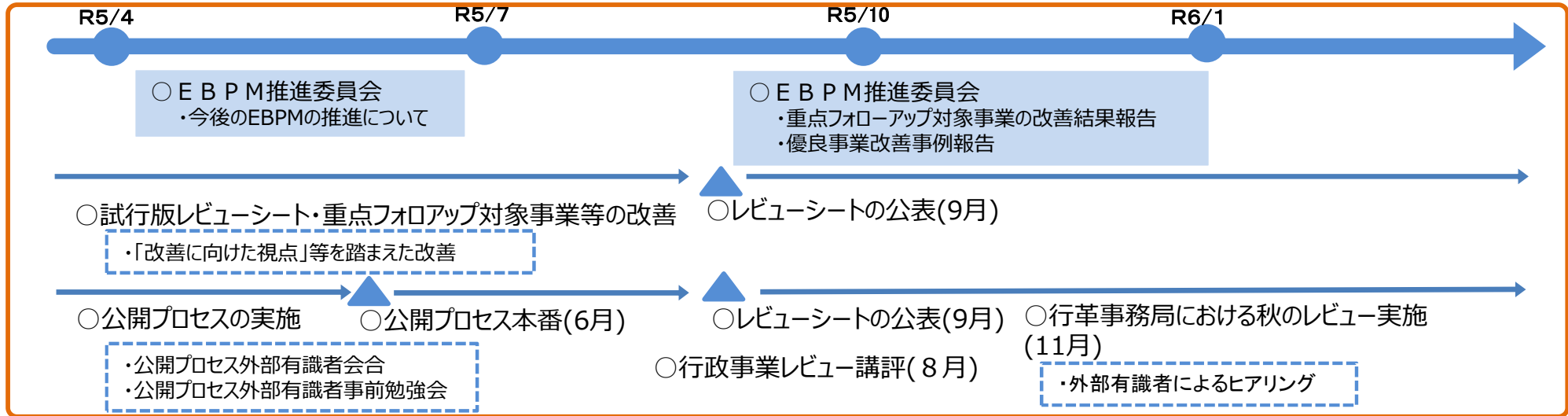
- 行政事業レビューシートを活用したEBPMの実践を行う。
 - ・ **試行版レビューシート、重点フォローアップ対象事業等について、レビューシート全体の品質管理**を行い、令和4年秋のレビュー等から得られた示唆、問題意識に基づく「改善に向けた視点」等を参考としつつ、改善を図る。
 - ・ 行政事業レビューの中から、優良事業改善事例を選定・表彰する。
 - ・ 上記の取組について、EBPM推進委員会に報告する。
- 行政事業レビュー以外の政策プロセス（規制、税制改正プロセス等）についても、行革事務局の取組方針に沿って対応する。
- **令和6年度概算要求プロセスにおいて**、レビューシートを活用するとともに、より発展的なEBPMの実践を行うため、**①新規事業、②モデル事業、③大幅見直し事業**のうち、一定の選定基準（※）に該当する事業（ただし、除外基準に該当する事業を除く。）、**④部局単位で①～③に該当する事業が1つもない場合は、新規事業（新規事業がない場合は既存事業）のうち最も要求額が大きい事業**について、**ロジックモデルを作成し、活用**する。このうち一部を公表。
- 過年度のEBPM実践事業については、ロジックモデル等の内容を更新するなどして取組を継続する。
※ 一定の選定基準(今後、EBPMの実践等を通じて、毎年度見直しを行う予定)

	事業	概要
①	新規事業	新規に予算要求する事業であり、要求額が 1億円以上 の事業
②	モデル事業	本格的な事業展開に先立って、規模や対象を限って一定の手法を実践することなどを通じ、有効性を検証する事業 ただし、過年度にEBPMの実践対象となった事業を除く。
③	大幅見直し事業	対前年度予算額 50%以上 増加する事業であって、かつ、増加分の差額が 1億円以上 の事業
④	①に該当しない新規事業 又は ③に該当しない既存事業	※ 部局単位で①～③に該当する事業が1つもない場合 ①以外の新規事業(新規事業がない場合は③以外の既存事業)のうち、最も要求額が大きい事業(部局単位) なお、本欄は財務省主計局への概算要求提出時まで適用する。

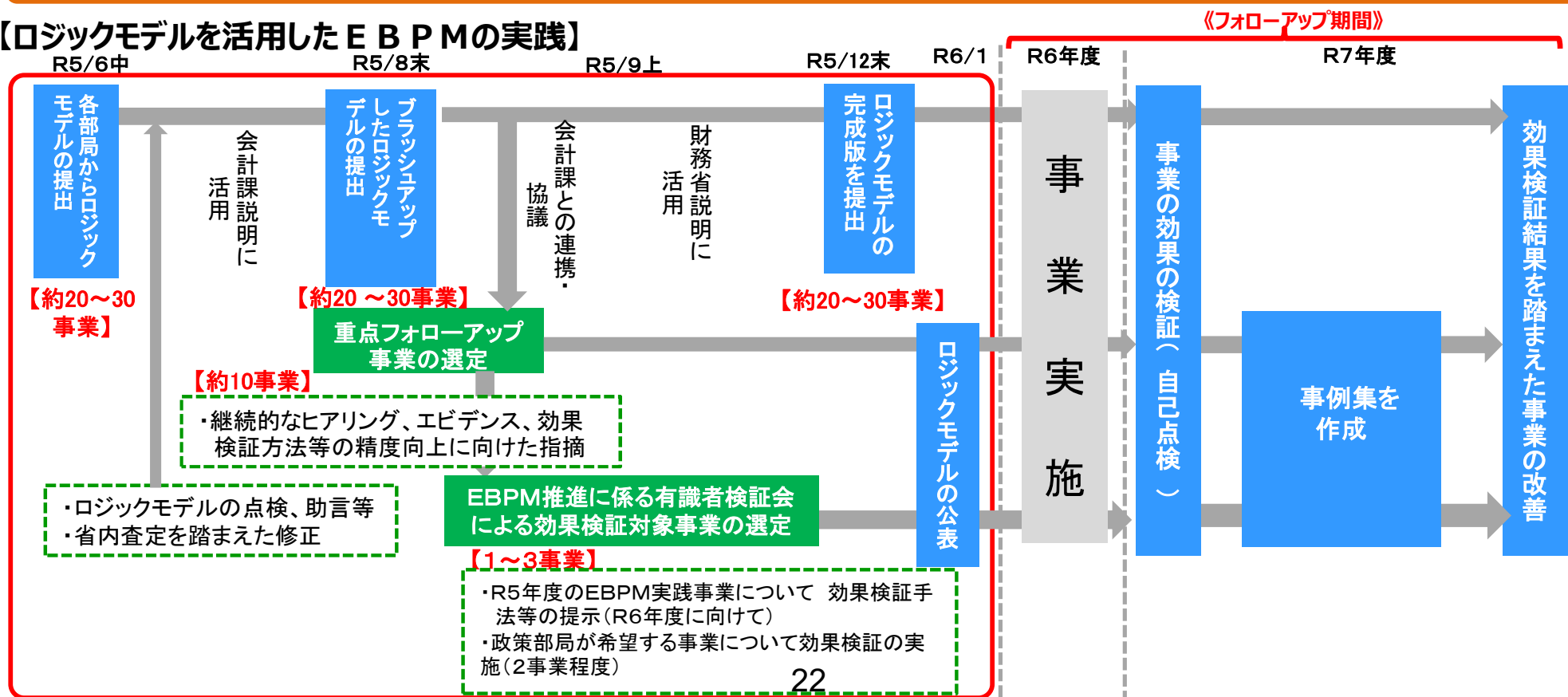
注 年度途中で補正予算対応となった事業についても、令和6年度に事業を継続する場合は、引き続き本年度の実践事業とする。

令和5年度EBPMの実践のスケジュール

【行政事業レビューシートを活用したEBPMの実践】



【ロジックモデルを活用したEBPMの実践】



注 EBPM推進に係る有識者検証会を開催し、EBPMの実践状況の検証を行う。

令和5年度ロジックモデル作成状況（令和5年8月）

部局名	事業名	区分
医政局	重症患者診療体制整備事業	その他
健康・生活衛生局	AMRに関する臨床情報センター事業	その他
医薬局	医薬品等承認審査費	大幅見直し事業
労働基準局	働き方改革の実現に向けた労働時間の上限規制の定着による長時間労働の抑制等のための取組	その他
職業安定局	副業・兼業に関する情報提供モデル事業	モデル事業
雇用環境・均等局	労働者協同組合法の円滑な施行	モデル事業
社会・援護局（社会）	生活保護適正運営体制強化事業（生活保護適正化等事業）	新規事業
社会・援護局（援護）	戦傷病者福祉事業	その他
老健局	地域包括支援センター等におけるICT等導入支援事業	新規事業
人材開発統括官	フリーター等支援事業	その他
医政局（医産情）	医療系ベンチャー育成支援事業	大幅見直し事業

令和4年度EBPM実践事業(事業)

部局名	事業名	区分	重点FU
健康局	慢性腎臓病（CKD）重症化予防のための診療体制構築・多職種連携モデル事業（仮称）	モデル事業	
健康局	アピアランス支援モデル事業	モデル事業	
健康局	免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業	モデル事業	○
医薬・生活衛生局	健康食品の安全性の確保等事業	その他	○
職業安定局	外国人労働者雇用労務責任者講習モデル事業	モデル事業	
雇用環境・均等局	フリーランスに対する相談支援及び周知広報事業	その他	
子ども家庭局	困難な問題を抱える女性支援推進事業	その他	○
社会・援護局（社会）	就労体験・訓練先の開拓・マッチング事業	モデル事業	○
社会・援護局（援護）	中国残留邦人等に対する定着自立支援事業	その他	
老健局	介護報酬改定等に伴うシステム改修経費	その他	
保険局	特定健康診査・保健指導に必要な経費	その他	○
人材開発統括官	新卒者等に対する支援	その他	○

資料2 ロジックモデルの作成・点検について

2023年10月11日

目次

1. ロジックモデルの作成・点検方法について	3
------------------------	---

2. ロジックモデルの点検結果について	11
---------------------	----

1. ロジックモデルの作成・点検方法について

厚生労働省のEBPMの実践では、EBPM実践対象事業、重点フォローアップ事業、効果検証対象事業を設定しており、それぞれの概要は以下のとおり

厚生労働省の令和5年度EBPMの実践関連事業の種類

種類	選定の考え方	内容	選定期期
EBPM実践対象事業	<ul style="list-style-type: none"> 「厚生労働省における令和5年度の実践方針」の選定基準と除外基準によって選出された事業 基準に該当する事業はすべて対象 	<ul style="list-style-type: none"> ロジックモデルの作成と活用 政策立案・評価担当参事官室（以下「政評室」という。）と委託業者（※）が協力してロジックモデルに対して点検 点検結果を受け、担当課室はロジックモデルをブラッシュアップ 	令和5年5月以降
重点フォローアップ事業	<ul style="list-style-type: none"> EBPM実践対象事業の中から、「重点フォローアップ事業の選定基準及び対象事業について」（令和5年度第1回厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会 資料3）に沿って選定 	<ul style="list-style-type: none"> 担当課室へのヒアリングを実施し、ロジックモデルの記載内容、エビデンスの記載内容、効果検証に関してEBPM事務局からコメント送付 半期に1度、政評室が詳細なフォローアップを実施（令和3年度、令和4年度に選定された事業についてはフォローアップ継続中） 	令和5年9月以降
効果検証対象事業	<ul style="list-style-type: none"> 重点フォローアップ事業の中から、データの活用可能性や事業の展開可能性等を鑑みて選定 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度にリサーチデザインを作成し、令和6年度に事業の実施、令和7年度に効果検証を行う想定 	令和5年12月以降

※委託業者：令和元年度～令和2年度はみずほ情報総研（株）（現 みずほリサーチ&テクノロジーズ（株））
 令和3年度は三菱UFリサーチ&コンサルティング（株）
 令和4年度及び令和5年度はデロイトトーマツコンサルティング合同会社

令和4年度有識者検証会における検証結果取りまとめの指摘事項（今後の課題）を踏まえ、今年度も引き続きEBPMの実践の取組を継続する

厚生労働省における令和5年度の取組方針

厚生労働省における令和5年度の取組方針

各種政策プロセス（政策の立案・評価・見直し）においてEBPMを実践し、より効果的な政策の立案・改善に努める。特に、**予算事業については行政事業レビューシート及びロジックモデルを活用**する。

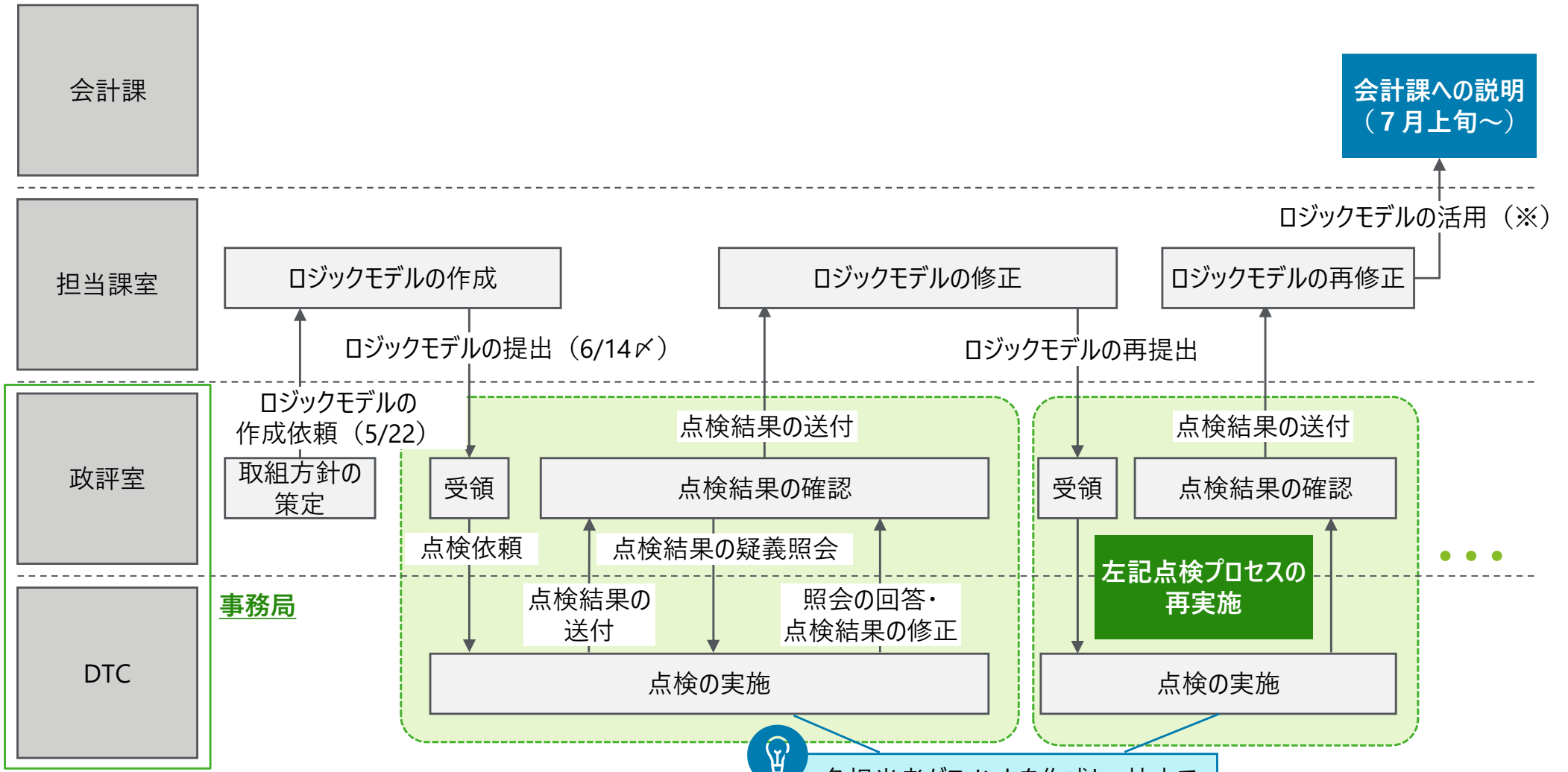
- 行政事業レビューシートを活用したEBPMの実践を行う。
 - ・ **試行版レビューシート、重点フォローアップ対象事業等について、レビューシート全体の品質管理**を行い、令和4年秋のレビュー等から得られた示唆、問題意識に基づく「改善に向けた視点」等を参考としつつ、改善を図る。
 - ・ 行政事業レビューの中から、優良事業改善事例を選定・表彰する。
 - ・ 上記の取組について、EBPM推進委員会に報告する。
 - 行政事業レビュー以外の政策プロセス（規制、税制改正プロセス等）についても、行革事務局の取組方針に沿って対応する。
 - **令和6年度概算要求プロセスにおいて**、レビューシートを活用するとともに、より発展的なEBPMの実践を行うため、**①新規事業、②モデル事業、③大幅見直し事業**のうち、一定の選定基準（※）に該当する事業（ただし、除外基準に該当する事業を除く。）、**④部局単位で①～③に該当する事業が1つもない場合は、新規事業（新規事業がない場合は既存事業）のうち最も要求額が大きい事業**について、**ロジックモデルを作成し、活用**する。このうち一部を公表。
 - 過年度のEBPM実践事業については、ロジックモデル等の内容を更新するなどして取組を継続する。
- ※ 一定の選定基準（今後、EBPMの実践等を通じて、毎年度見直しを行う予定）

	事業	概要
①	新規事業	新規に予算要求する事業であり、要求額が 1億円以上 の事業
②	モデル事業	本格的な事業展開に先立って、規模や対象を限って一定の手法を実践することなどを通じ、有効性を検証する事業 ただし、過年度にEBPMの実践対象となった事業を除く。
③	大幅見直し事業	対前年度予算額 50%以上 増加する事業であって、かつ、増加分の差額が 1億円以上 の事業
④	①に該当しない新規事業 又は ③に該当しない既存事業	※ 部局単位で①～③に該当する事業が1つもない場合 ①以外の新規事業(新規事業がない場合は③以外の既存事業)のうち、最も要求額が大きい事業(部局単位) なお、本欄は財務省主計局への概算要求提出時まで適用する。

注 年度途中で補正予算対応となった事業についても、令和6年度に事業を継続する場合は、引き続き本年度の実践事業とする。

予算概算要求における会計課への説明（7月上旬～）での活用を当面の目標として、各担当課室にてロジックモデルを作成。事務局にて点検を行い、点検結果のフィードバックを複数回実施

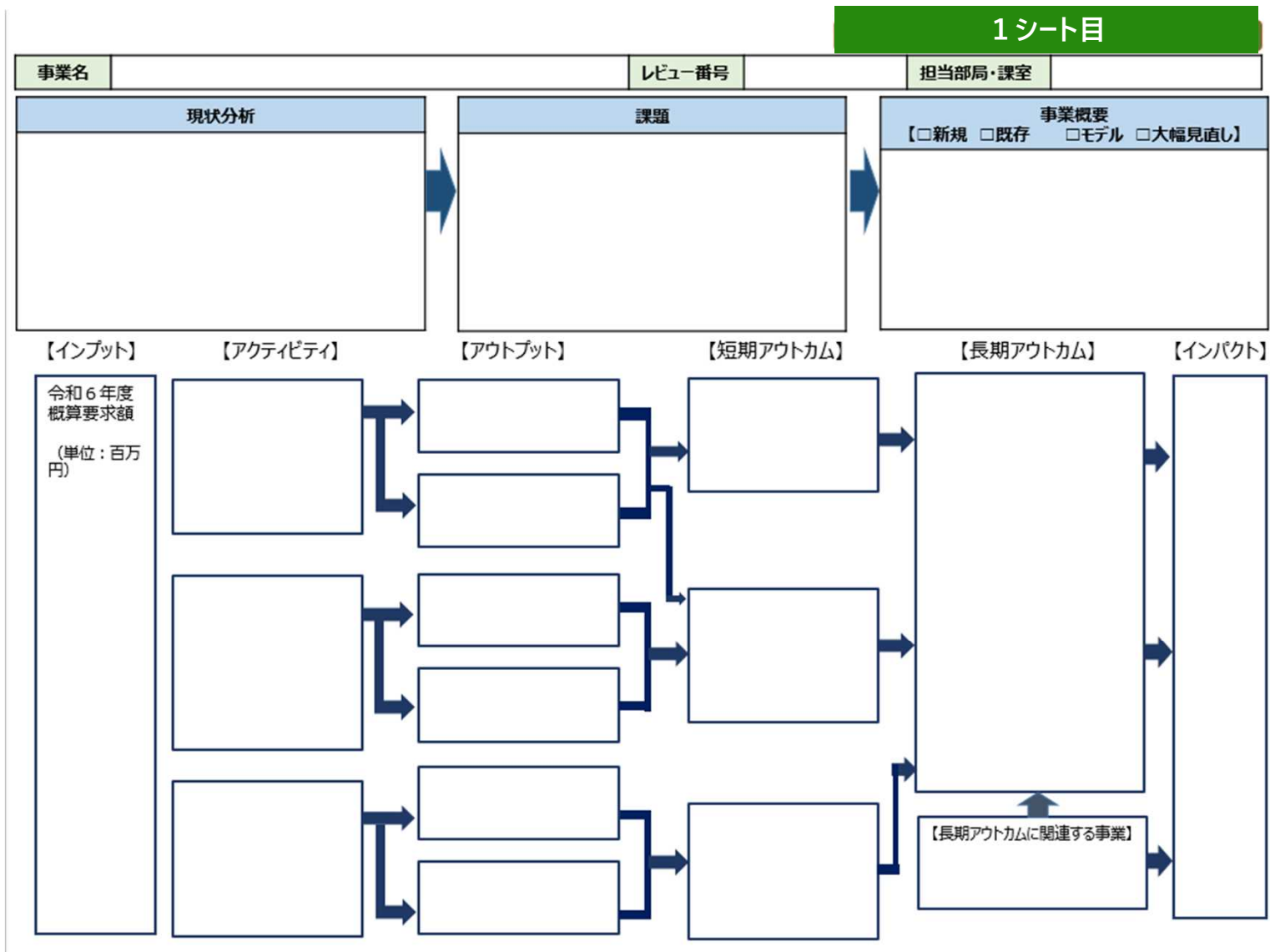
E B P M実践対象事業のロジックモデルの作成・点検・活用フロー



※ 予算概算要求時の説明資料としてロジックモデルを活用

ロジックモデル 1 シート目では、現状分析、課題、事業概要、インプットからインパクトまでの論理展開を記入する

今年度のロジックモデル様式①



(出所) 「令和5年ロジックモデル様式」(厚生労働省作成)

ロジックモデル2シート目では、1シート目に記入した内容の論理展開の妥当性や課題解決の手段としての当該事業の妥当性、効果検証方法を記入する

今年度のロジックモデル様式②

ロジックの確認 ①		2シート目	
【論理展開の妥当性の確認】			
インプット⇒アクティビティ⇒アウトプット⇒短期アウトカム⇒長期アウトカム⇒インパクトの論理展開が妥当か、以下の確認項目に従ってチェックすること。			
✓	確認項目	留意点	
<input type="checkbox"/>	短期アウトカムが改善すれば、長期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、長期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、短期アウトカムを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。	
<input type="checkbox"/>	アウトプットが改善すれば、短期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、短期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、アウトプットを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。	
<input type="checkbox"/>	長期アウトカムから遡って考えたときに、アクティビティがアウトカムの改善に寄与するものになっているか（ボトルネックを解決する事業になっているか）。	寄与するものになっていない場合は、長期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、アクティビティを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。	
<input type="checkbox"/>	関連事業も含めて考えたときに、課題解決に寄与する事業となっているか。	他事業も含めて、課題解決に寄与する事業となっているかを確認してください。	
ロジックの確認 ②		効果検証方法	
【課題解決の手段としての当該事業（アクティビティ）の妥当性】		1 効果検証に当たっての項目整理	
		P：事業の対象	I：事業内容
		C：比較対象	O：アウトカム
		2 効果検証の分析手法等	
EBPM取組体制	役職	氏名	内線
（課室長クラスの方も含めること） ※別途案内するEBPM実践担当者研修（必須研修）の受講対象者に該当			

ロジックモデル3シート目では、1シート目で設定した指標（アウトプット、短期アウトカム、長期アウトカム）の目標水準及び目標達成時期の設定理由や調査名等を記入する

今年度のロジックモデル様式③

【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】				3シート目
指標名	目標値（水準）の設定理由	目標達成時期の設定理由	設定した指標を算出する調査名等	
アウトプット①				
アウトプット②				
アウトプット③				
アウトプット④				
アウトプット⑤				
アウトプット⑥				
短期アウトカム①				
短期アウトカム②				
短期アウトカム③				
短期アウトカム④				
短期アウトカム⑤				
短期アウトカム⑥				
長期アウトカム①				
長期アウトカム②				
長期アウトカム③				

「ロジックモデル点検結果コメントシート」（参考2）に基づき、特に以下の観点に着目し、ロジックモデルの点検を実施

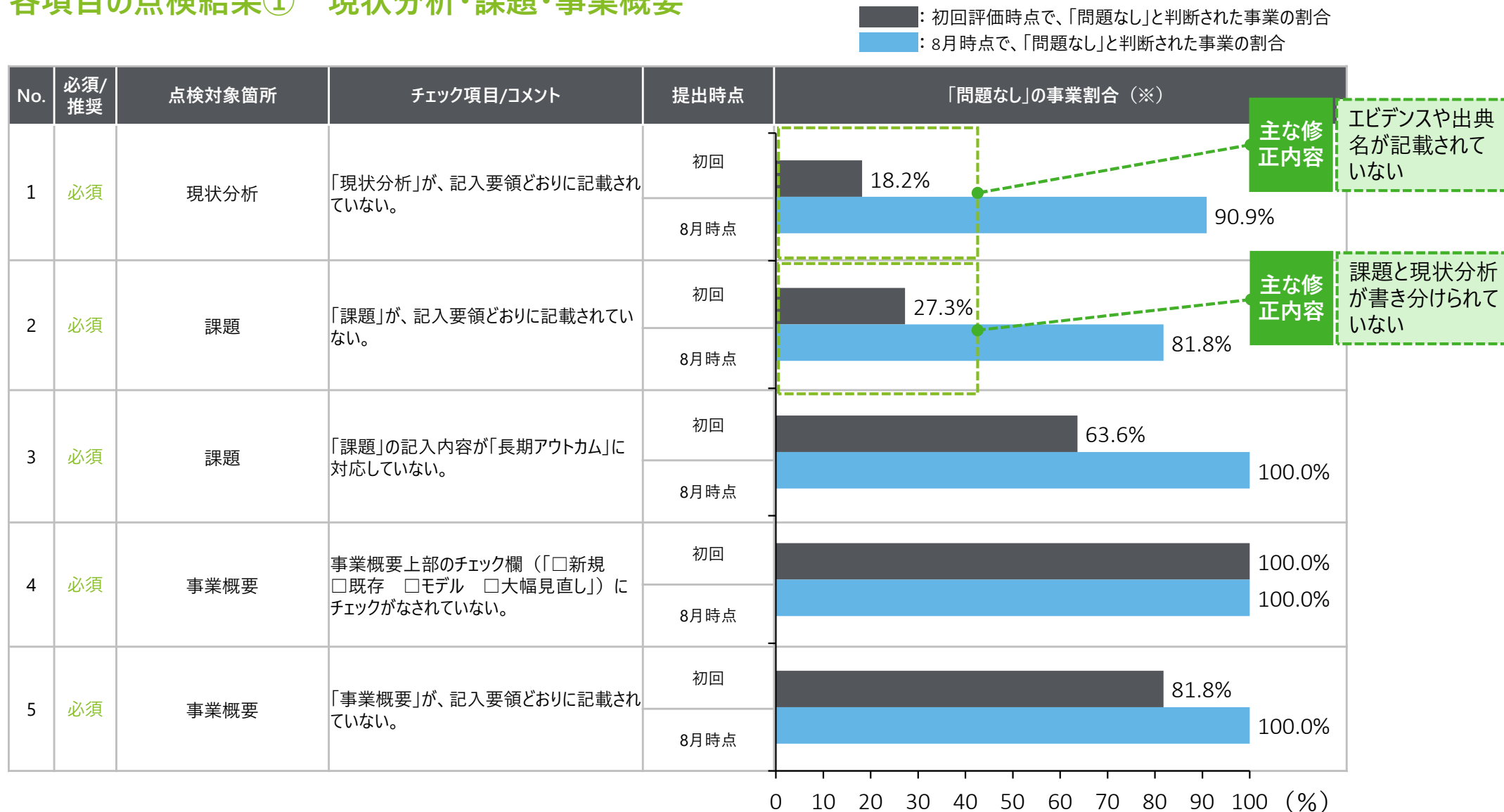
ロジックモデル点検の主な観点

項目		主な点検内容
1 シート目	現状分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ エビデンス（統計等データや研究成果）やデータ出典を示しながら記入されているか ✓ 現状分析と課題の書き分けがされているか
	事業概要・アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業概要とアクティビティの内容が一貫しているか ✓ アクティビティは実施項目別に細分化・具体化されているか
	アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ✓ アクティビティに応じたアウトプットが記入されているか
	アウトカム（短期・長期）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業の期待される成果として、定量的な指標が可能な範囲で設定されているか ✓ 目標達成時期が設定されているか
2 シート目	ロジックの確認①	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 要素項目間（アクティビティ・アウトプット・アウトカム）の流れに論理的整合性が成立しているか ✓ 短期アウトカムと長期アウトカム間で飛躍がないか
	ロジックの確認②	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 当該事業を行うことで課題が解決できることをエビデンス（統計等データや研究成果）を用いて記入されているか ✓ 参照しているエビデンスが妥当か
	効果検証方法	<ul style="list-style-type: none"> ✓ PICOが適切に設定されているか ✓ 比較対象の設定（例：実施地域と未実施地域）が妥当か ✓ 分析に必要なデータの収集方法が事前に検討されているか
3 シート目	指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 指標の設定理由ではなく、指標の目標水準の設定理由（具体的な数値の根拠）が記入されているか ✓ 目標達成時期の設定理由が妥当か
	指標を算出する調査名等	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 定量的な指標を設定している場合、指標の算出に用いる調査名等が適切に記入されているか

2. ロジックモデルの点検結果について

現状分析・課題・事業概要は、事務局の点検を経て、約8割以上が「問題なし」と判定できる記載内容となった。現状分析・課題は、エビデンスの不備や課題と現状分析の書き分けが主な修正内容であった

各項目の点検結果① 現状分析・課題・事業概要

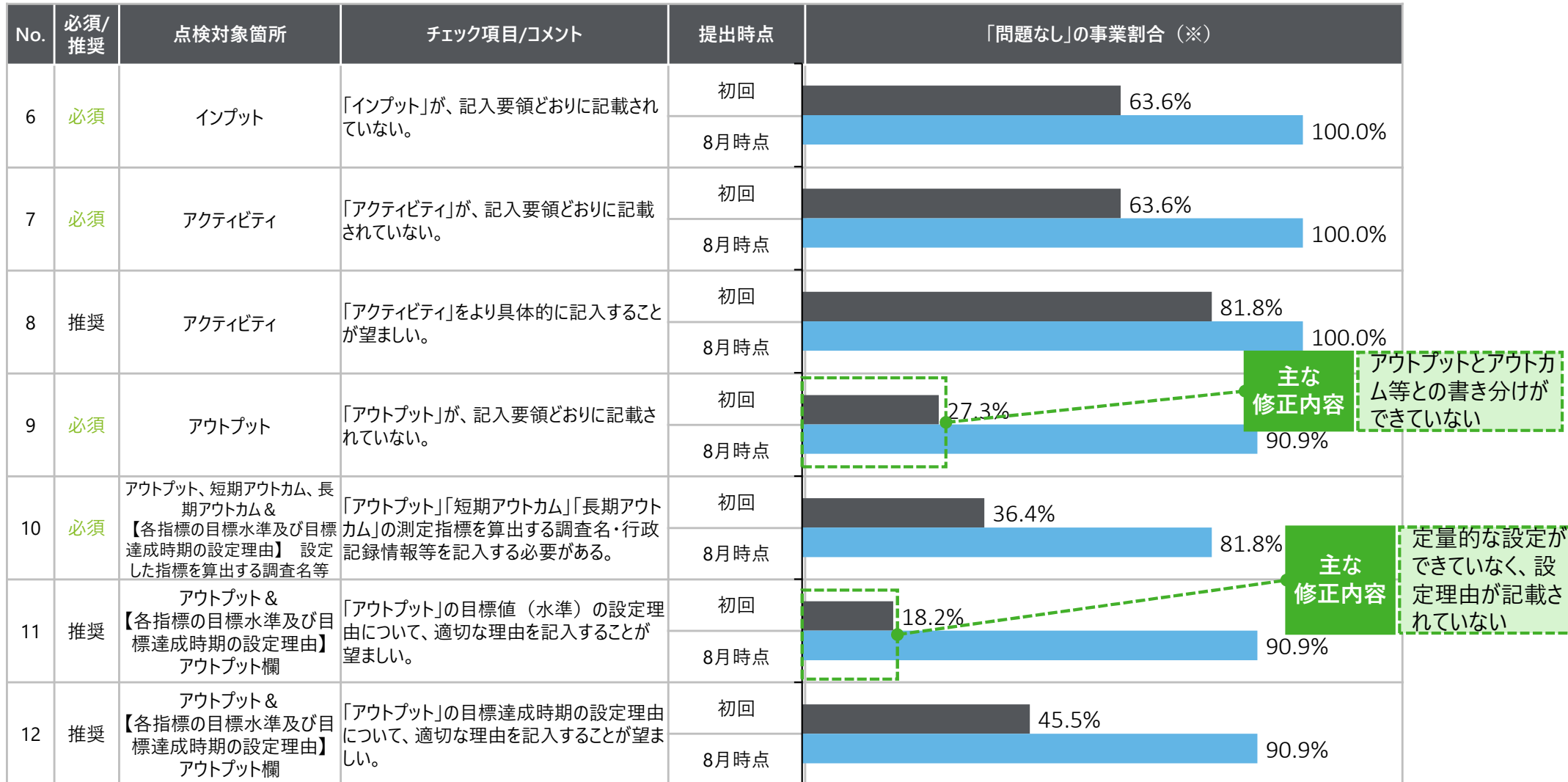


(※) 点検結果「問題なし」の事業 / 全EBPM実践対象事業

インプット・アクティビティ・アウトプットは、事務局の点検を経て、8割以上が「問題なし」と判定できる記載内容となった。アウトプットは、アクティビティとの不整合や目標設定理由が記載されていない等が主な修正内容であった

各項目の点検結果② インプット・アクティビティ・アウトプット

■：初回評価時点で、「問題なし」と判断された事業の割合
 ■：8月時点で、「問題なし」と判断された事業の割合



(※) 点検結果「問題なし」の事業 / 全EBPM実践対象事業

短期アウトカムは、事務局の点検を経て、約8割以上が「問題なし」と判定できる記載内容となった。長期アウトカムは目標設定理由が記載されていない事業が多く見受けられた

各項目の点検結果③ 短期アウトカム・長期アウトカム・インパクト

■：初回評価時点で、「問題なし」と判断された事業の割合
 ■：8月時点で、「問題なし」と判断された事業の割合

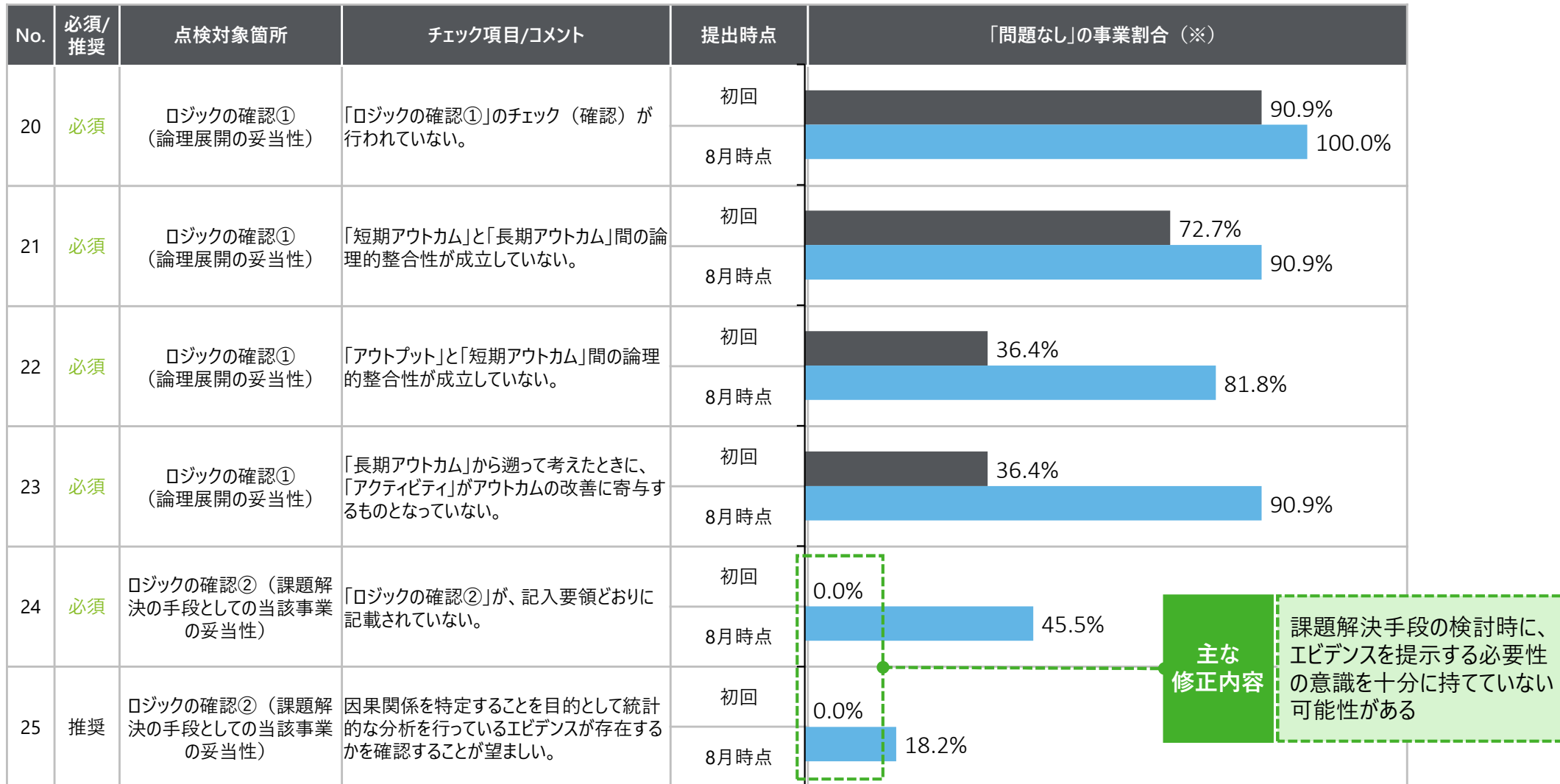
No.	必須/推奨	点検対象箇所	チェック項目/コメント	提出時点	「問題なし」の事業割合 (※)	
13	必須	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 短期アウトカム欄	「短期アウトカム」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	45.5%	
				8月時点		90.9%
14	推奨	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 短期アウトカム欄	「短期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	63.6%	
				8月時点		81.8%
15	推奨	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 短期アウトカム欄	「短期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	63.6%	
				8月時点		90.9%
16	必須	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	45.5%	
				8月時点		100.0%
17	推奨	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	45.5%	
				8月時点		90.9%
18	推奨	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	初回	27.3%	<div style="border: 1px dashed green; padding: 5px;"> 主な修正内容 目標設定理由が記載されていない </div>
				8月時点		
19	必須	インパクト	「インパクト」が、記入要領どおりに記載されていない。	初回	100.0%	
				8月時点		100.0%

(※) 点検結果「問題なし」の事業 / 全EBPM実践対象事業

ロジックの確認①は、事務局の点検を経て、8割以上が「問題なし」と判定できる記載内容となった。ロジックの確認②については、エビデンスの不備が主な修正内容であった

各項目の点検結果④ ロジックの確認①・ロジックの確認②

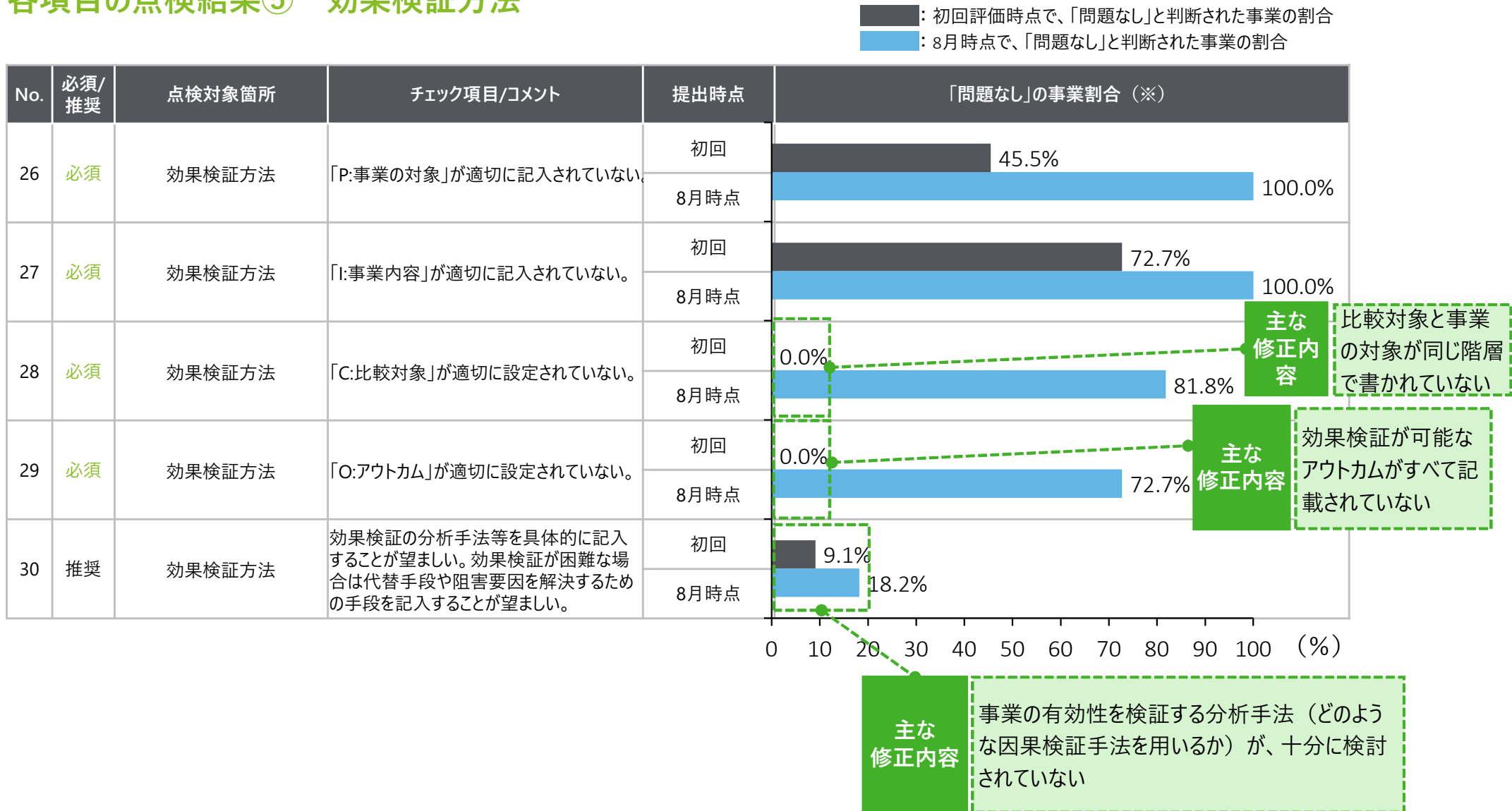
■：初回評価時点で、「問題なし」と判断された事業の割合
 ■：8月時点で、「問題なし」と判断された事業の割合



(※) 点検結果「問題なし」の事業 / 全EBPM実践対象事業

効果検証方法は、事務局の点検を経て、必須項目は7割以上が「問題なし」と判定できる 記載内容となった。分析手法は、十分に検討されていない事業が多く見受けられた

各項目の点検結果⑤ 効果検証方法



(※) 点検結果「問題なし」の事業 / 全EBPM実践対象事業

1. 重点フォローアップ事業選定の方針について

背景・経緯

◆ 1. 内閣官房行政改革推進本部事務局の取組方針

- 行政事業レビューにおけるEBPMの実践
 - 政策の立案・改善や予算編成プロセスといった意思決定プロセスで予算事業で実施されている行政事業レビューを活用。
 - 各府省において、レビューシート全体の品質管理を進めていく。
 - 各府省は、重点フォローアップ対象事業の改善結果と、府省内で選定・表彰した優良事業改善事例を、EBPM推進委員会に報告する。
 - より発展的な効果検証を設計・実施し、その結果を事業の改善に効果的に活用するなど、事業の効果を追求する取組を行うことを推奨する。
- 行政事業レビュー以外の政策プロセス（規制の立案・評価・見直し、税制改正プロセスにおける税制当局への説明や各種計画・施策パッケージ等の立案・見直し）においても、EBPMの手法を活用する。
- ロジックモデルは、政策課題とその現状に対し、政策手段から目的までの「経路」を端的に図示化するものであり、政策形成・ブラッシュアップ、対外的なコミュニケーション、モニタリング・効果検証に有用であることから、政策の立案・実施・見直しの各段階において活用することを推奨する

※(出典)令和5年4月10日 内閣官房行政改革推進本部事務局 『令和5年度のEBPMの取組について』より作成

◆ 2. 厚生労働省における令和5年度の取組方針

ロジックモデルの精度向上を図るため、政評室は、会計課と連携・協議の上、提出されたロジックモデルの中から

- ① 重点的にフォローアップ（ヒアリングの実施、エビデンスの強化、効果検証方法の具体化等）する事業（「重点フォローアップ事業」）
- ② ①のうち、効果検証方法の精度向上を目指す事業（「効果検証対象事業」。「厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会」（以下「有識者検証会」という。）において選定）

について、担当課室等の協力の下、以下の作業を行う。

	作業内容
重点フォローアップ事業 【約10事業】	(1) 有識者検証会の知見を活用して、令和5年12月までにロジックモデルのブラッシュアップを実施 (2) 完成後のロジックモデルを令和6年1月に公表 (3) 令和7年度に事業の効果検証を実施
効果検証対象事業 (令和5年度対象事業) 【1～3事業】	上記の(1)から(3)と同様。特に、効果検証方法の精度向上に関する取組を実施

※(出典)令和5年5月22日 厚生労働省政策統括官（総合政策担当）付政策立案・評価担当参事官室 『令和5年度のEBPMの実践について【作業依頼】』より抜粋

重点フォローアップ事業の選定方針

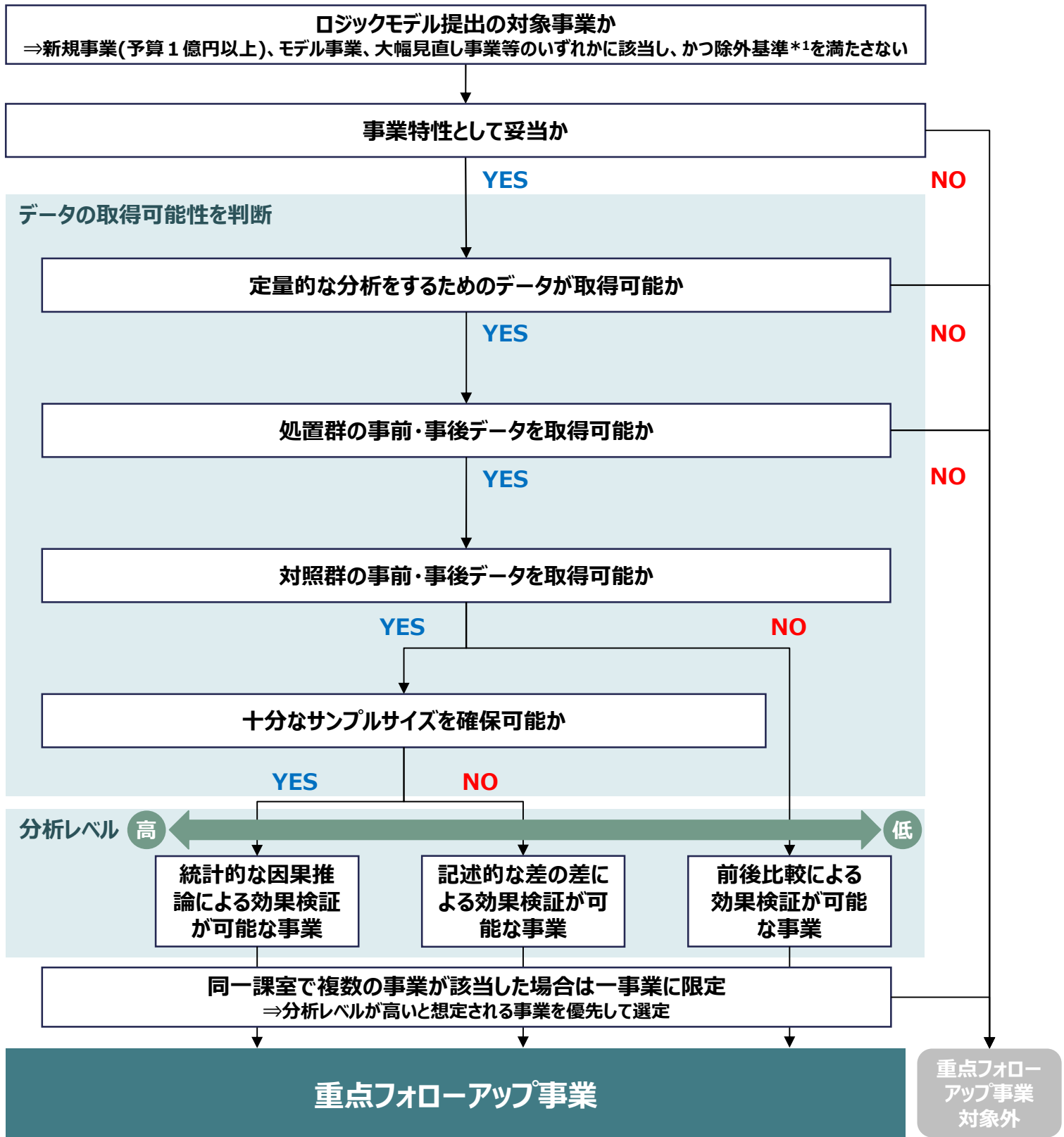
以下の事業については、重点フォローアップ事業として選定し、ロジックモデルの向上を図る。

厚生労働省のEBPMの実践対象事業の中から、以下①②に該当する事業

- ① 事業特性として妥当である事業
 - 効果検証を実施するうえで、アウトカムの分析が困難な事業及び費用対効果が十分に見込めない事業は、今年度の重点フォローアップ事業の対象外とする。
- ② データの取得可能性が高い事業
 - 定量的な分析をするためのデータの取得可能性が高いこと、また、処置群の事前・事後データの取得可能性が高いことを重点フォローアップ事業への選定条件とする。
 - 加えて、以下の基準に応じて、想定される効果検証の分析レベルを判断する。
 - i) 対照群を設定し、事業の非対象者の事前・事後データの収集が期待できるか
 - ii) 効果検証を実施するうえで十分なサンプルサイズが期待できるか

⇒ 同一課室で複数の事業が選定される場合、分析レベルが高い事業を優先し、一課室一事業に限定する。

2. 重点フォローアップ事業選定フロー及び選定基準について



*1 除外基準：i～vのいずれかを満たす事業についてはロジックモデル自体の作成・提出を不要としている

除外基準	
i	事業の内容が、現状分析・課題分析を目的とした事業
ii	司法判断により国が実施義務を負うことが明らかな事業
iii	現在の事業において採用されている手法に代わりうる有効な手法を検討することが困難な事業 (外交的判断で意思決定されており、原局レベルで代替案を検討することができない事業等を想定。個別協議の上、判断)
iv	効果検証実施年度(令和7年度)までに終了する事業(モデル事業を除く。)
v	政策目的から遡った政策手段の検討余地がない事業 (義務的経費の支出、システム改修、施設整備などの事業で、既定方針の実施過程にあるもの)

厚生労働省のE B P M推進に係る有識者検証会開催要綱

1 目的

デロイトトーマツコンサルティング合同会社では、厚生労働省から委託を受け、令和5年度にE B P M推進に係る調査研究事業を実施している。

本事業の一環として、「厚生労働省統計改革ビジョン 2019 工程表」（令和元年10月8日）及び「厚生労働省統計改革工程表」（令和4年12月23日）に基づき、外部有識者によるE B P Mの実践状況の検証等を行い、E B P Mの更なる推進を図ることを目的として開催する。

2 検証事項

- (1) ロジックモデルの点検・助言・効果検証方法等の精度向上に係る検証
- (2) 次年度のE B P Mの実践に向けた検証
 - ① 事業のスクリーニング基準に係る検証
 - ② 予算過程での反映方法に係る検証
 - ③ 事後の効果検証スキーム等の精度向上に係る検証
 - ④ その他E B P Mの取組に関する全体スキームに係る検証

3 構成員

別紙のとおり

4 運営等

- (1) 検証会は、デロイトトーマツコンサルティング合同会社が別紙の構成員の参集を求めて開催する。
- (2) 検証会は、構成員のうち1人を座長として選出する。
- (3) 検証会は、座長代理を置くことができる。
座長代理は、座長が構成員の中から指名するものとし、座長を補佐し、座長不在の場合にはその職務を行う。
- (4) 座長は、検証会において必要があると認めるときは、構成員以外の関係者に検証会への出席を求め、意見を聴くことができる。
- (5) 検証会の議事概要及び資料は、原則として公開する。ただし、座長は、公開することにより検討に著しい支障を及ぼすおそれがあると認めるとき、その他正当な理由があると認めるときは、非公開とすることができる。
- (6) 検証会の庶務は、デロイトトーマツコンサルティング合同会社において行う。
- (7) 前各項のほか、検証会の運営その他の検証会に関し必要な事項は、座長が定める。

別紙

厚生労働省のE B P M推進に係る有識者検証会構成員

(五十音順、敬称略)

伊藤 伸介	中央大学 経済学部 教授
高久 玲音	一橋大学 経済学部 准教授
田中 隆一	東京大学 社会科学研究所 教授
野口 晴子	早稲田大学 政治経済学術院 教授

事業名	〇〇〇〇〇推進検討事業	
担当部局	〇〇〇局〇〇〇課	
予算規模（百万円）	〇〇百万円	
事業区分	※当てはまるものに○	
		新規事業
		既存事業
		モデル事業
		大幅見直し事業
ロジックモデル提出日	2023/〇/〇〇	※本シートの点検対象であるバージョンの提出日

表の見方

→修正**必須**項目

○ 記入要領どおりに記載されていないため、修正が必要な項目

→修正**推奨**項目

○ 記入要領に沿って記載されているが、同要領の観点からは改善の余地がある項目

ロジックモデルp.1 現状分析・課題・事業概要

対応 必須/ 推奨項 目	点検結果	ロジックモデルの 点検対象箇所	チェック項目/コメント	修正の方法・ヒント	修正イメージ (リンク)	その他（個別コメント）
1 必須	修正対象	現状分析	「現状分析」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、当該事業が求められる背景事情を説明する必要がある。 ・「①エビデンス（データ・ファクトを含む。）を用いて ②可能な限り定量的（高い・低い・上昇・低下など）に ③分析した」現状の記入となっているかを確認し、①～③の全てが満たされるように記入内容を見直すこと。 ・エビデンス（データ・ファクトを含む。）が「現状分析」の根拠として成立しているか。エビデンス（データ・ファクトを含む。）に用いた調査名・行政記録情報等を記入すること。	修正事例	
2 必須	修正対象	課題	「課題」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、事業の前提となる政策課題や社会問題を、エビデンス（データ・ファクトを含む。）とともに説明する必要がある。 ・「①エビデンス（データ・ファクトを含む。）を用いて ②現状とあるべき姿を比較しながら ③現在の課題を解決すべきことを示している」記入となっているかを確認し、①～③の全てが満たされるように記入内容を見直すこと。 ・エビデンス（データ・ファクトを含む。）が示唆する内容と「課題」での説明は整合的である必要がある。以下のA又はBの対処を行う必要がある。 A 説明を十分にサポートできるエビデンス（データ・ファクトを含む。）に変更する。 B エビデンス（データ・ファクトを含む。）の示唆から逸脱しない「説明」に変更する。 ・エビデンス（データ・ファクトを含む。）に用いた調査名・行政記録情報等を記入すること。	修正事例	
3 必須	修正対象	課題	「課題」の記入内容が「長期アウトカム」に対応していない。	「課題」に記入した内容が、事業の結果もたらされる「長期アウトカム」と対応関係にある必要がある。		
4 必須	修正対象	事業概要	事業概要上部のチェック欄（ <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 既存 <input type="checkbox"/> モデル <input type="checkbox"/> 大幅見直し）にチェックがなされていない。	事業概要上部の該当する項目のチェック欄にチェックすること（複数可）。		
5 必須	修正対象	事業概要	「事業概要」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、事業の内容を簡潔に記載する必要がある。 ・事業について概要のみ記入し、個別事業はアクティビティに記入すること。 ・大幅見直し事業の場合、見直し内容が分かるように記入すること。	修正事例	

ロジックモデルp.1 インプット～インパクト							
対応 必須/ 推奨	点検結果	対象項目	チェック項目/コメント	修正の方法・ヒント	修正イメージ (リンク)	その他(個別コメント)	
6	必須	修正対象	インプット	「インプット」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、令和6年度概算要求額を記載(単位:百万円)する必要がある。なお、既存事業の場合には、令和5年度予算額と執行額(又は執行見込額)も記入する必要がある。		
7	必須	修正対象	アクティビティ	「アクティビティ」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、事業の実施内容を記載する必要がある。		
8	推奨	修正対象	アクティビティ	「アクティビティ」をより具体的に記入することが望ましい。	事業概要に記入されている内容のうち、事業の中で行う取組をより細分化・具体化して、記入することが望ましい。		
9	必須	修正対象	アウトプット	「アウトプット」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、「アウトプット」には、「アクティビティの結果として生み出される事業活動の直接的な実績」を記載する必要がある。実績を示す指標と、令和6年度の目標値をアクティビティごとに記入する必要がある。 例) アクティビティを「研修の開催」とした場合、アウトプットは「研修の開催回数〇回(令和6年度)」		
10	必須	修正対象	アウトプット、短期アウトカム、長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 設定した指標を算出する調査名等	「アウトプット」「短期アウトカム」「長期アウトカム」の測定指標を算出する調査名・行政記録情報等を記入する必要がある。	定量的な指標を設定できている場合、指標の算出に用いる調査名・行政記録情報等を記入する必要がある。 ※既存調査の場合には①調査名 ②調査周期 ③直近の調査の結果確定時期 を記入。 ※新規調査・新たな制度による報告結果等の場合には、以下の内容を記入。 ①区分…「新規調査」「新たな制度による報告結果(行政記録情報)」等 ②調査・記録の概要		
11	推奨	修正対象	アウトプット & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 アウトプット欄	「アウトプット」の目標値(水準)の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	アウトプットの目標値(水準)の設定理由として、適切な理由を記入することが望ましい。 適切な理由が記入できない場合には、当該指標を変更することが望ましい。 適切な理由例： ・全国7ブロックで1回ずつ開催するため、研修回数の目標は7回と設定する。 ・パイロット事業としてスタートするため、令和6年度の支援件数の目標は分析に堪える500件程度とする。		
12	推奨	修正対象	アウトプット & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 アウトプット欄	「アウトプット」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	目標年度を令和7年度以降に設定する場合、目標の達成時期の設定理由について記入することが望ましい。 適切な理由が記入できない場合には、当該指標を変更することが望ましい。 適切な理由例： ・補助金申請数を「アウトプット」の指標としているが、制度の認知までに時間がかかると見込まれるため。		
13	必須	修正対象	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 短期アウトカム欄	「短期アウトカム」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、「短期アウトカム」には、「アウトプットにより国民生活及び社会経済に及ぼす影響のうち期待される成果」の中でも比較的短期・初期に期待される成果を記載する必要がある。また、「短期アウトカム」は可能な限り定量的な指標を設定することが求められる。	修正事例	
14	推奨	修正対象	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 短期アウトカム欄	「短期アウトカム」の目標値(水準)の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	「短期アウトカム」の目標値(水準)の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。適切な理由が記入できない場合には、当該指標を変更することが望ましい。 適切な理由例： 現在の指標の水準が〇〇(数値)であり、××(アクティビティ)により、△△%の向上が見込まれる。また、その他の事業の効果も□□と見込まれるので、●●(目標水準)と設定する。		
15	推奨	修正対象	短期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 短期アウトカム欄	「短期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	「短期アウトカム」は、「アクティビティ」及び「アウトプット」から直結するものであり、目標年度は原則として、令和6年度にするため、目標年度を令和7年度以降に設定する場合、目標の達成時期の設定理由について適切な理由を記入することが望ましい。適切な理由が記入できない場合には、当該指標を変更することが望ましい。 適切な理由例： ・「短期アウトカム」に対して、事業開始直後に効果が発現せず、〇年後から効果が発現することが見込まれるため。	修正事例	
16	必須	修正対象	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、「長期アウトカム」には、「アウトプットにより国民生活及び社会経済に及ぼす影響のうち期待される成果」の中でも比較的長期的に期待される成果であり、「課題が実現された状態(あるべき姿)」を示す項目を記入する必要がある。また、「長期アウトカム」は可能な限り定量的な指標を設定することが求められる。	修正事例	
17	推奨	修正対象	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標値(水準)の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	「長期アウトカム」の目標値(水準)の設定理由として、適切な理由を設定することが望ましい。適切な理由が設定できない場合には、当該指標を変更又は削除することが望ましい。 適切な理由例： 現在の指標の水準が〇〇(数値)であり、××(アクティビティ)により、△△%の向上が見込まれる。また、その他の事業の効果も□□と見込まれるので、●●(目標水準)と設定する。		
18	推奨	修正対象	長期アウトカム & 【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】 長期アウトカム欄	「長期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入することが望ましい。	目標の達成時期の設定理由について適切な理由を記入することが望ましい。適切な理由が記入できない場合には、当該指標を変更することが望ましい。 適切な理由例： ・「長期アウトカム」に対して、事業実施が直接的に効果を与え、〇年以内に効果が発現し、その後効果の持続が見込まれるため。 ・「長期アウトカム」に対して「短期アウトカム」(〇〇)を通じて影響を与えるため、事業開始直後に効果が発現せず、効果の発現に〇年程度要することが見込まれるため。		
19	必須	修正対象	インパクト	「インパクト」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、「行政事業レビューシート」の「政策評価、新経済・財政再生計画との関係」欄のうち、「政策評価」の「施策」欄を参考に記入する必要がある。その際には、当該事業が寄与すると考えられる政策レベルの最終目標を記載する必要がある。		

ロジックモデルp.2 ロジックの確認①②/効果検証方法							
対応 必須/ 推奨	点検結果	対象項目	チェック項目/コメント	修正の方法・ヒント	修正イメージ (リンク)	その他(個別コメント)	
20	必須	修正対象	ロジックの確認① (論理展開の妥当性)	「ロジックの確認①」のチェック(確認)が行われていない。	ロジックの論理的展開が妥当か確認を行う必要がある。確認する中で、必要に応じてロジックモデルの修正が求められる。ロジックモデルの修正を行った場合には、再度すべてのチェック項目について確認を行う必要がある。		
21	必須	修正対象	ロジックの確認① (論理展開の妥当性)	「短期アウトカム」と「長期アウトカム」間の論理的整合性が成立していない。	「短期アウトカム」と「長期アウトカム」間の論理的整合性が成立していない可能性がある。ロジックモデルの当該箇所を再度確認し、修正する必要がある。	修正事例	
22	必須	修正対象	ロジックの確認① (論理展開の妥当性)	「アウトプット」と「短期アウトカム」間の論理的整合性が成立していない。	「アウトプット」と「短期アウトカム」間の論理的整合性が成立していない可能性がある。ロジックモデルの当該箇所を再度確認し、修正する必要がある。	修正事例	
23	必須	修正対象	ロジックの確認① (論理展開の妥当性)	「長期アウトカム」から遡って考えたときに、「アクティビティ」がアウトカムの改善に寄与するものとなっていない。	「長期アウトカム」から遡って考えたときに、「アクティビティ」がアウトカムの改善に寄与するものとなっていない可能性がある。ロジックモデルの当該箇所を再度確認し、修正する必要がある。	修正事例	
24	必須	修正対象	ロジックの確認②(課題解決の手段としての当該事業の妥当性)	「ロジックの確認②」が、記入要領どおりに記載されていない。	記入要領に従い、課題解決の手段としての当該事業の因果関係を示唆するエビデンスの概要とその説明を記載する必要がある。 その際には、①・②の双方に触れながら、論理的に説明する必要がある。 ①当該事業が課題解決の手段として効果があることを示唆するエビデンス(学術研究、既存の類似事業の実績・効果、モデル事業の実施結果など) ②当該事業を行ううえで、その内容(開催場所、調査・開催件数、アプローチ対象等)が他の事業候補と比べて妥当であることを示すエビデンス また、因果関係を示唆するエビデンスが見当たらないときには、データやファクトによるエビデンスを記入する必要がある。	修正事例	
25	推奨	修正対象	ロジックの確認②(課題解決の手段としての当該事業の妥当性)	因果関係を特定することを目的として統計的な分析を行っているエビデンスが存在するかを確認することが望ましい。	それぞれのエビデンスについて確認し、因果関係を特定するような統計的な分析(例:ランダム化比較実験など)の存在の有無を確認し、記入することが望ましい。	修正事例	
26	必須	修正対象	効果検証方法	「P:事業の対象」が適切に記入されていない。	「P:事業の対象」には、アウトカムに応じて各アクティビティの最終的な対象者を記入する必要がある。	修正事例	
27	必須	修正対象	効果検証方法	「I:事業内容」が適切に記入されていない。	「I:事業内容」には、ロジックモデルの各アクティビティに対応するものを記入する必要がある。	修正事例	
28	必須	修正対象	効果検証方法	「C:比較対象」が適切に設定されていない。	「C:比較対象」には「事業の対象」と同じ階層のものを記入する必要がある。 例1)【事業の対象:事業を実施している市町村の労働者】の場合は【比較対象:事業を実施していない市町村の労働者】などと設定する。 例2) 例1のような設定が難しい場合、次善策として「事業対象者の事業実施前」を「比較対象」として設定してもよい。 例3) 例1のような設定が難しい場合、次善策として「全国平均との比較」なども「比較対象」として設定してもよい。	修正事例	
29	必須	修正対象	効果検証方法	「O:アウトカム」が適切に設定されていない。	「O:アウトカム」にはロジックモデルで設定した「短期アウトカム」、「長期アウトカム」を選択し記入する必要がある。	修正事例	
30	推奨	修正対象	効果検証方法	効果検証の分析手法等を具体的に記入することが望ましい。効果検証が困難な場合は代替手段や阻害要因を解決するための手段を記入することが望ましい。	効果検証方法を、効果検証の対象となるアウトカムの指標、考えられる検証の方法(調査の方法、分析の方法)、実現可能性等が明確になるように、具体的に記入することが望ましい。 上記に伴い、アウトカムの指標等に変更が生じた場合には、「各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由」の対応箇所を変更することが望ましい。	修正事例	

ロジックモデル記入要領

令和 5 年 5 月 22 日

政策統括官(総合政策担当)付

政策立案・評価担当参事官室

本記入要領は、令和 5 年度に E B P M 実践対象となる事業に係るロジックモデルの作成のため、様式記入の留意事項等を示したものです。ロジックモデル作成後に P10「(別紙)ロジックモデルのチェックシート」を用いて自己点検を行った上で、政策立案・評価担当参事官室へ提出してください。

なお、令和 5 年度を通じた E B P M 実践の全体的なスケジュールは P9「(参考) 令和 5 年度を通じた作業スケジュール」(以下「作業スケジュール」という。)を参照してください。

I ロジックモデルの作成趣旨

- ロジックモデルを作成する趣旨は、以下のとおりです。
 - ① 現状を把握・分析し、その結果から解決すべき課題を特定し、課題解決のためにどのような手段を講じるのかを検討するプロセスをロジックモデルによって図示することで、改めて論理展開等を確認し、政策立案の精度向上を図ること
 - ② 事前の目標設定、事後の効果検証方法をあらかじめ明らかにしておくことで政策改善の精度向上を図ること
- 予算要求過程における説明資料や行政事業レビューの補足資料及び課内・部局内・省内での説明資料として積極的にご活用いただくほか、審議会、各種ステークホルダー、財政当局など、政策立案等プロセスにおける様々な外部関係者に対するコミュニケーションツールとしてもご活用ください。

II 各項目の記入事項 (別添 1 ロジックモデル様式の 1 シート目及び 3 シート目)

ロジックモデルの様式の各項目について、以下にしたい記入してください。

※ 重点フォローアップ事業に選定された場合、ロジックモデルの 1 シート目を厚生労働省ホームページ等で公表します。(作業スケジュール参照)

1 事業名

- EBPM の実践対象となる事業名を記入します。事業名は行政事業レビューシート (以下「レビュー

ーシート」という。) と同一の事業名を記入してください。

2 レビュー番号

- EBPM の実践対象となる事業のレビュー番号を記載します。なお、9月上旬のレビューシートの公表時における番号と揃えるため、一次提出（6月14日）では記入せず、二次提出（8月下旬予定）の際に記入してください。

3 担当部局・課室

- 事業の担当部局・課室名を記入してください。

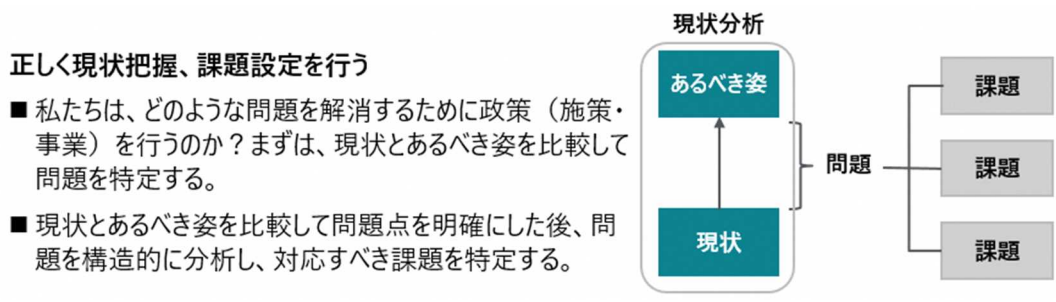
4 現状分析

- 当該事業が必要となる背景事情を説明するため、現状についてエビデンス（統計等データや研究成果。以下同じ。）を用いて可能な限り定量的に分析した結果を記入してください。
- 現状分析の記入内容については、課題を説明するために十分なエビデンスとしてください。
- 法令等に基づき実施する事業であっても、当該法令等の規定内容を記入するだけでは十分ではなく、可能な限り定量的な現状分析を示してください。
- エビデンスの名称（調査年次含む）・出典も記入してください。
- 本欄は、レビューシートの「現状・課題」欄を参考に記入してください。

5 課題

- 現状分析を基に、事業の前提となる課題（解決したい課題・社会問題）を設定根拠とともに記入してください。 その際、具体的なエビデンスを併せて示してください。課題が複数考えられる場合は、課題ごとに箇条書きで記入してください。
- 課題設定の際には現状とあるべき姿とを比較し、あるべき姿を実現するため、何を解決しなければならぬのかを考えることがポイントです。課題が解決された状態が「11. 長期アウトカム」となるため、課題と長期アウトカムは原則として対応します。
- エビデンスの名称（調査年次含む）・出典も記入してください。
- 本欄は、レビューシートの「現状・課題」欄を参考に記入してください。

図1 現状分析と課題の関係性



6 事業概要

- 「新規 既存 モデル 大幅見直し」の該当する区分にチェック（✓）（複数✓可）をしてください。
- 本欄は、レビューシートの「事業概要」欄に該当します。
- 実施内容は概要のみ簡潔に記入し、個別事業は「8 アクティビティ」に記入してください。また、大幅見直し事業の場合、見直し内容が分かるように記入してください。
- 事業概要を示す既存資料があれば別紙として添付してください。

7 インプット

- インプットとは事業を行う際に投入する資源のことです。ここでは、令和6年度概算要求額を記入してください（単位：百万円）。なお、既存事業の場合には、令和5年度予算額と執行額（又は執行見込額）も記入してください。
- 本欄は、レビューシートの「予算額・執行額」の該当年度欄に該当します。

8 アクティビティ

- アクティビティとは事業の実施内容のことです。「6 事業概要」に記載した内容を踏まえ、事業実施内容を項目別に記入してください。

9 アウトプット

- アウトプットとはアクティビティの結果として生み出される事業活動の直接的な実績のことです。アクティビティごとの実績を示す指標と令和6年度の目標値を記入してください。
（例：アクティビティが「セミナーの開催」の場合、アウトプットは「セミナーの開催回数 令和6年度：100回」となる）
- 本欄は、レビューシートの「活動目標及び活動実績（アウトプット）」の「活動目標」「活動指標」欄に該当します。
- ロジックモデルの3シート目の【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】にアウトプットとして設定した各指標の目標値（水準）の設定理由、目標達成時期の設定理由、設定した指標を算出する調査名等を記入してください。
※目標達成時期の設定理由については、目標年度を令和7年度以降に設定する場合のみ、記入してください。（目標年度が令和6年度の場合は、記入不要です。）

10 短期アウトカム

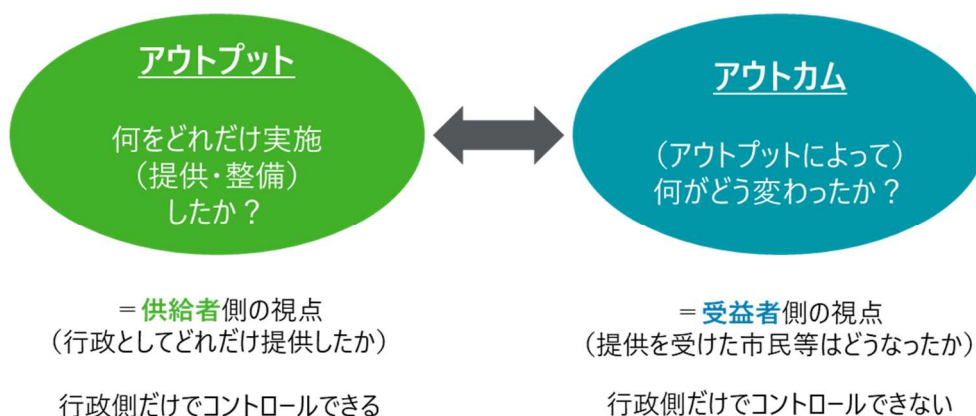
- アウトカムとはアウトプットにより国民生活及び社会経済に及ぼす影響のうち期待する成果のことです。

- 短期アウトカムとは、上記のうち短期的な成果のことです。アウトプットの直接的な成果と令和6年度の目標値を記入してください。その際、事業実施により直接的に短期アウトカムを把握できる場合を除き、必要に応じてあらかじめ成果を把握するための取組（調査報告、アンケートやヒアリングの実施など）を事業内容に組み込んでおくことを検討してください。
 - 事業実施後にはアウトカムの状況について検証し、政策改善につなげます。このため、可能な限り定量的な指標を設定し、達成度合いを明確かつ具体的に示すことができるようにしてください。
 - 本欄は、レビューシートの「成果目標及び成果実績（短期アウトカム）」欄を参考に記入してください。
 - ロジックモデルの3シート目の【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】に短期アウトカムとして設定した各指標の目標値（水準）の設定理由、目標達成時期の設定理由、設定した指標を算出する調査名等を記入してください。
- ※目標達成時期の設定理由については、目標年度を令和7年度以降に設定する場合のみ、記入してください。（目標年度が令和6年度の場合は、記入不要です。）

11 長期アウトカム

- 長期アウトカムとはアウトカムのうち長期的な成果のことです。課題設定の際に検討したあるべき姿、課題が実現された状態を示す項目と目標値（達成時期を含む）をレビューシートの「成果目標及び成果実績（長期アウトカム）」を参考に記入してください。なお、長期アウトカムで達成する内容が「5. 課題」が解決された状態を示すため、課題と長期アウトカムは原則として対応します。
- また、効率的な効果検証のため、目標値は既存計画のKPIや目標値を参考にするとともに、目標値の達成時期は当該事業に関連する施策の見直し時期等を踏まえて設定してください。
- 事業実施後にはアウトカムの状況について検証し、政策改善につなげます。このため、可能な限り定量的な指標を設定し、達成度合いを明確かつ具体的に示すことができるようにしてください。
- 本欄は、レビューシートの「成果目標及び成果実績（長期アウトカム）」欄を参考に記入してください。
- ロジックモデルの3シート目の【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】に長期アウトカムとして設定した各指標の目標値（水準）の設定理由、目標達成時期の設定理由、設定した指標を算出する調査名等を記入してください。

図2 アウトプットとアウトカムの関係性



12 長期アウトカムに関連する事業

- 長期アウトカムに寄与すると考えられる関連事業がある場合、その名称を記入してください。
存在しない場合は、枠ごと削除してください。

13 インパクト

- インパクトとは当該事業が寄与すると考えられる政策レベルの最終的な目標のことです。レビューシート「施策」欄（政策評価の施策目標）を参考に記入してください。

Ⅲ ロジックモデルの確認と効果検証方法の設定（別添1ロジックモデル様式の2シート目及び3シート目）

1 ロジックの確認①（論理展開の妥当性）

- インプット⇒アクティビティ⇒アウトプット⇒短期アウトカム⇒長期アウトカム⇒インパクトの因果関係を確認するために、ロジックモデルの2シート目の確認項目に従ってチェック（✓）してください。これにより、論理展開に問題がないかを確認します。なお、確認の際は以下の①～⑥も参考として、ロジックモデルの3シート目の【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】と合わせて確認してください。

【ロジックモデルの流れ（因果関係）に関する説明】

- ① 作成したロジックモデルのうち、短期アウトカムごとに、インプットから短期アウトカムまで（特にアウトプットと短期アウトカム）の因果関係を確認してください。
- ② 短期アウトカムが複数のアウトプットに基づく場合には、アウトプットと短期アウトカムの因果関係を1対1で記入せず、複数のアウトプットをまとめて短期アウトカムとの因果関係を記入しても構いません。

- ③ 短期アウトカムと長期アウトカムの因果関係を確認してください。個々の短期アウトカムと個々の長期アウトカムを紐付けて説明できる場合は、可能な限り、どの短期アウトカムがどの長期アウトカムと因果関係を持つのかを明らかにしてください。この際、②同様、両者の関係は必ずしも1対1で記入せず、複数の短期アウトカムをまとめて1つの長期アウトカムとの因果関係を記入しても構いません。

【各指標の妥当性に関する説明】

- ④ 短期アウトカム、長期アウトカムとして設定した指標の算出方法を確認してください。既存調査の結果から指標を算出する場合はロジックモデルの3シート目の【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】に調査名（例：厚生労働省「人口動態調査」）を記入しているか、新規調査や新たな制度などによる報告結果から指標を算出する場合は、その種類（区分）（例：「新規調査」、「新制度による報告」等）を記入しているか確認してください。

※ 上記の因果関係を精査する中で論理展開に問題がある場合には、事業内容や設定したアウトプットやアウトカムの指標を見直してください。

- ⑤ アウトプットの目標水準の設定理由の妥当性、短期アウトカムと長期アウトカムの選定理由及び目標水準の設定理由の妥当性をロジックモデルの3シート目の【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】に記入しているか確認してください。なお、長期アウトカムの設定に際して参考にした既存の計画等が存在する場合は、当該計画名等を併せて記入しているか確認してください。
- ⑥ インパクトを達成するために長期アウトカムの水準が妥当か、長期アウトカムを達成するために短期アウトカムの水準が妥当か、短期アウトカムを達成するためにアウトプットの水準が妥当かを確認するため、以下について、ロジックモデルの3シート目の【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】に簡潔に記入しているか確認してください。

- ・ アウトプットが目標水準に達すれば短期アウトカムが達成されると考える理由（原則としてエビデンスを含む）
- ・ 短期アウトカムが目標水準に達すれば長期アウトカムが達成されると考える理由（原則としてエビデンスを含む）
- ・ 長期アウトカムが目標水準に達すればインパクトが達成されると考える理由（原則としてエビデンスを含む）

なお、目標値（水準）を実績値から算出する場合は、算出方法が記載されているかも併せて確認してください。

《論理展開の妥当性の確認のためのチェック項目》

✓	確認項目	留意点
<input type="checkbox"/>	短期アウトカムが改善すれば、長期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、長期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、短期アウトカムを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。
<input type="checkbox"/>	アウトプットが改善すれば、短期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、短期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、アウトプットを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。
<input type="checkbox"/>	長期アウトカムから遡って考えたときに、アクティビティがアウトカムの改善に寄与するものになっているか（ボトルネックを解決する事業になっているか）。	寄与するものになっていない場合は、長期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、アクティビティを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。
<input type="checkbox"/>	関連事業も含めて考えたときに、課題解決に寄与する事業となっているか。	他事業も含めて、課題解決に寄与する事業となっているかを確認してください。

2 ロジックの確認②（課題解決の手段としての当該事業の妥当性）

- 課題を解決し、あるべき姿（長期アウトカムに対応）の実現を図るための具体的な手段としての、事業内容（アクティビティ）の妥当性を記入してください。
- 具体的には、事業の対象者、対象地域、実施方法（委託 or 直接）等の観点から確認し、その手段を選択した理由についてエビデンスを活用しながら記入してください。

<エビデンスの例>

- ・ 他分野における既存の類似事業の実績・効果
- ・ 前身となる事業が存在する場合は、その実績・効果
- ・ 継続中のモデル事業の場合には、前年度までの実績・効果
- ・ 他国で実施している事業の場合は、その実績・効果（研究成果を含む）

3 効果検証方法

- 効果検証方法を事前に明らかにする趣旨は、事前の目標設定、事後の効果検証方法をあらかじめ明らかにしておくことで政策改善の精度向上を図ることです。事前に効果検証方法を考えることを通じて、効果の把握方法（データ収集や比較対象の設定等）をあらかじめ事業の実施内容としてビルトイン（リサーチデザイン）するなど、必要な準備を政策立案とセットで行ってください。

- その上で具体的な効果検証方法を記入してください。効果検証方法を検討するに当たっては、P I C Oと呼ばれる枠組みを踏まえて以下の項目を整理することが有効です。
 - ① P：誰に対する事業か（Population）
 - ・ 事業の対象者を記入してください。
 - ② I：どういった事業か（Intervention）
 - ・ どういった事業を実施するか記入してください。これはロジックモデルのアクティビティに対応します。
 - ③ C：誰と比較して効果を明らかにするか（Comparison）
 - ・ 効果検証の肝は、適切な比較対象を設定することにあります。この項目は効果検証で最も重要な要素の一つです。
 - ・ 例えば、モデル事業の場合は、事業を実施する地域と実施しない地域が発生します。その点に着目して、事業実施がアウトカムに与える効果を検証します。
 - ④ O：アウトカムは何か（Outcome）
 - ・ 効果検証で着目するアウトカムを記入してください。これはロジックモデルの短期・長期アウトカムに対応します。
 - ・ 効果検証を行うには定量的で測定可能な指標が必要です。
- 上記に加えて、効果検証に用いるデータや分析手法が明らかな場合は、それを記入してください。
- また、国又は自治体等の行政機関による実施の場合でも、事業内容を検討する前段階から、効果検証方法も併せて検討し、具体的な検証方法は審議会等での議論を踏まえて記入することも可能です。その場合は、「具体的な効果検証方法については、〇〇審議会での議論を踏まえ検討し、〇〇目途に結論を得る見込み」というような記入をしてください。
- 現段階ではどのようにしても効果検証が難しい場合は、なぜ効果検証ができないのかを明らかにし、その阻害要因を解決するためにはどのようなことを行えばよいかを記入してください。
- なお、既存の審議会等において当該事業の効果検証を行うことが予定されている場合は、審議会等の名称と効果検証時期を記入してください。

4 EBPM取組体制

- EBPMの実践に当たっての取組体制に関し、担当者の役職、氏名及び内線を記入してください。
取組体制には、責任の所在を明確にするために、課室長クラスの方も含みます。
なお、本欄に記載した方は別途案内するEBPM実践担当者研修(必須研修)の受講対象者となります。

(参考) 令和5年度を通じた作業スケジュール

時期	実践内容・提出先
令和5年5月22日	<ul style="list-style-type: none"> 政策立案・評価担当参事官室（以下「政評室」という。）は各部局へEBPMの実践を依頼（事務連絡）
5月下旬～6月上旬	<ul style="list-style-type: none"> 実践担当者（ロジックモデルのEBPM取組体制に記載した者全員）は「EBPM実践担当者研修」（必須研修）を受講
6月14日	<ul style="list-style-type: none"> 各部局はロジックモデルを作成し、政評室に提出【一次提出】
6月中旬～下旬	<ul style="list-style-type: none"> 政評室はロジックモデルを確認し、各部局に修正案を提示し調整
7月上旬～下旬	<ul style="list-style-type: none"> 各部局はロジックモデルを会計課説明に活用
8月下旬	<ul style="list-style-type: none"> 各部局は政評室との調整を踏まえ修正したロジックモデルを会計課及び政評室に提出【二次提出】 その後の財務省主計局への説明においてもロジックモデルを積極的に活用
9月中旬～12月中	<ul style="list-style-type: none"> 政評室は外部有識者の知見を活用して、重点フォローアップ事業(約10事業)を選定し、各部局へのヒアリング、ロジックモデルの精度向上のための継続的なフォローアップを実施
12月下旬	<ul style="list-style-type: none"> 各部局は最終的なロジックモデル等を政評室に提出【三次提出】
令和6年1月	<ul style="list-style-type: none"> <u>重点フォローアップ事業のロジックモデル（最終版）</u>を厚労省HPで公表
2月上旬～3月中旬	<ul style="list-style-type: none"> 政評室は外部有識者の知見を活用して、重点フォローアップ事業の中から、効果検証手法の精度向上を目指す効果検証対象事業（1～3事業）を選定 効果検証対象事業について、関係部局に効果検証に向けた提案（リサーチデザイン）を実施

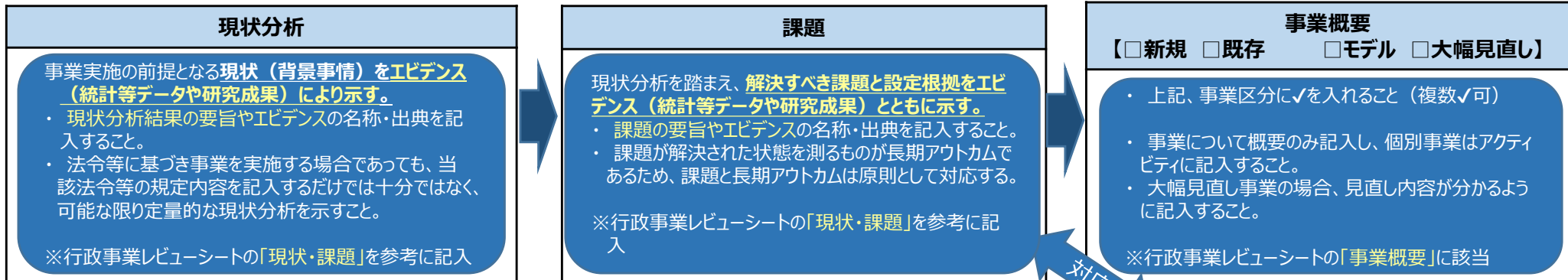
(別紙) ロジックモデルのチェックシート

現状分析	<input type="checkbox"/>	「①エビデンス（データ・ファクトを含む。）を用いて、②可能な限り定量的に、③分析した」現状の記入となっているか。
	<input type="checkbox"/>	エビデンス（データ・ファクトを含む。）を記入したうえで、定量的な説明（高い・低い・上昇・低下など）を記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	記入されているエビデンス（データ・ファクトを含む。）が「現状分析」の根拠として成立しているか。
	<input type="checkbox"/>	エビデンス（データ・ファクトを含む。）に用いた調査名・行政記録情報等を記入しているか。
課題	<input type="checkbox"/>	「①エビデンス（データ・ファクトを含む。）を用いて、②現状とあるべき姿を比較しながら、③現在の課題を解決すべきことを示している」記入となっているか。
	<input type="checkbox"/>	エビデンス（データ・ファクトを含む。）を記入したうえで、定量的な説明（高い・低い・上昇・低下など）を記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	記入されているエビデンス（データ・ファクトを含む。）が「課題」の根拠として成立しているか。
	<input type="checkbox"/>	「課題」の記入内容が「長期アウトカム」に対応しているか。
	<input type="checkbox"/>	エビデンス（データ・ファクトを含む。）に用いた調査名・行政記録情報等を記入しているか。
事業概要	<input type="checkbox"/>	事業概要上部の該当する項目のチェック欄にチェックしているか。
	<input type="checkbox"/>	事業の内容が簡潔に記載されているか（個別事業はアクティビティ欄に／大幅見直しの場合、見直しの内容が分かるか）。
インプット	<input type="checkbox"/>	概算要求額を百万円単位で記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	既存事業の場合、前年度の予算額と執行額（又は執行見込額）も記入しているか。
アクティビティ	<input type="checkbox"/>	事業の実施内容を記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	事業の中で行う取組をより細分化・具体化して記入しているか。
アウトプット	<input type="checkbox"/>	「アクティビティの結果として生み出される事業活動の直接的な実績」を示す指標と目標値を記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	定量的な指標を設定できている場合、指標の算出に用いる調査名・行政記録情報等を記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	「アウトプット」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入しているか。

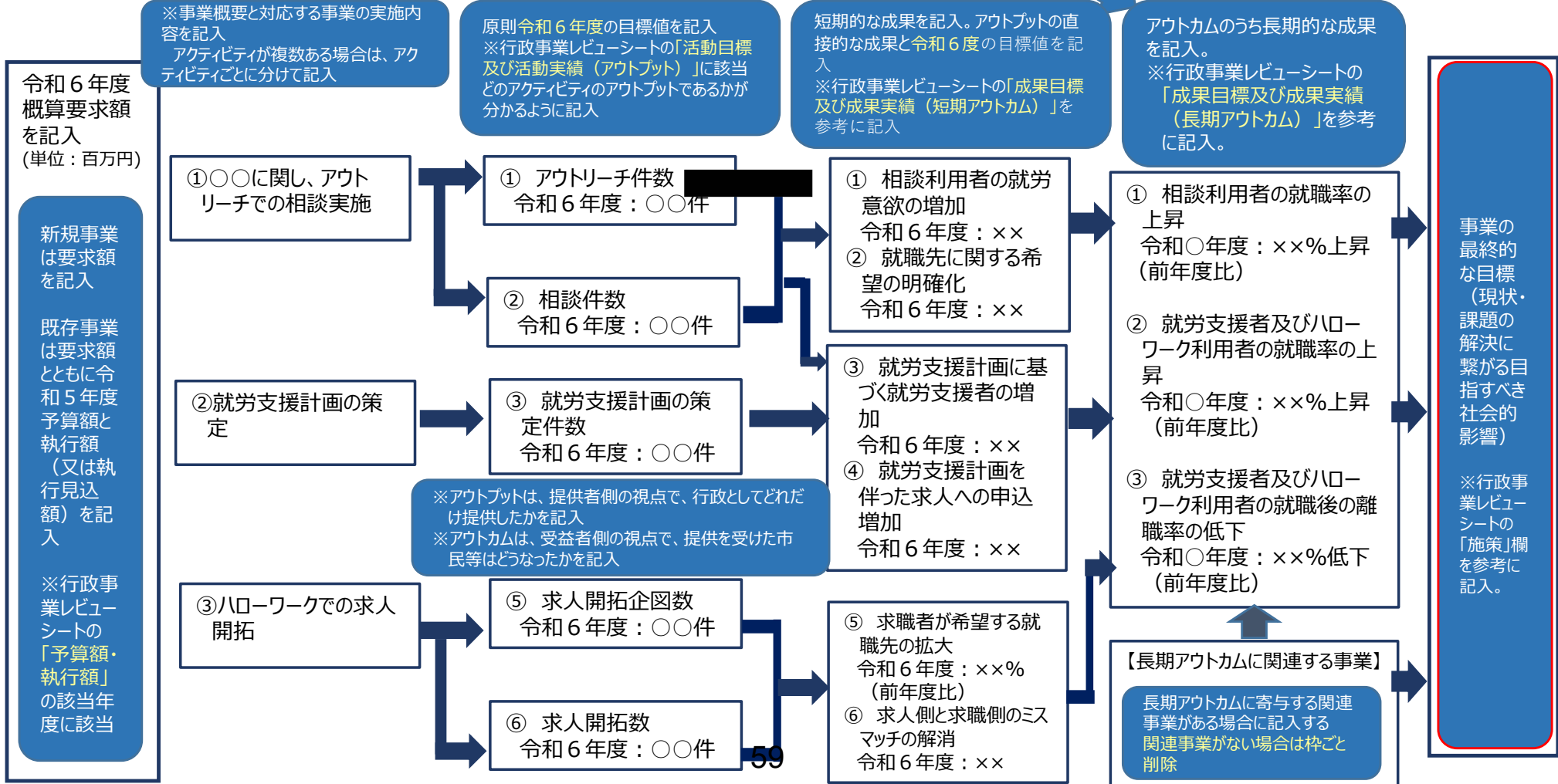
	<input type="checkbox"/>	「アウトプット」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入しているか。
短期アウトカム	<input type="checkbox"/>	「アウトプットにより国民生活及び社会経済に及ぼす影響のうち期待する成果」の中でも比較的短期・初期に期待される成果を記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	可能な限り定量的な指標を設定しているか。
	<input type="checkbox"/>	定量的な指標を設定できている場合、指標の算出に用いる調査名・行政記録情報等を記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	「短期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	「短期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入しているか。
長期アウトカム	<input type="checkbox"/>	「アウトプットにより国民生活及び社会経済に及ぼす影響のうち期待する成果」の中でも比較的長期に期待される成果であり、「課題が実現された状態（あるべき姿）」を示す項目を記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	可能な限り定量的な指標を設定しているか。
	<input type="checkbox"/>	定量的な指標を設定できている場合、指標の算出に用いる調査名・行政記録情報等を記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	「長期アウトカム」の目標値（水準）の設定理由について、適切な理由を記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	「長期アウトカム」の目標達成時期の設定理由について、適切な理由を記入しているか。
インパクト	<input type="checkbox"/>	当該事業が寄与すると考えられる政策レベルの最終目標を記入しているか。
	<input type="checkbox"/>	「行政事業レビューシート」の「施策」欄を参考に記入しているか。

※太枠で囲った項目は、ロジックモデルの3シート目【各指標の目標水準及び目標達成時期の設定理由】に関するチェック内容となります。

事業名	行政事業レビューシートの「事業名」と統一	レビュー番号	第二次提出時記入	担当部局・課室	課室名まで記入
-----	----------------------	--------	----------	---------	---------



【インプット】 【アクティビティ】 【アウトプット】 【短期アウトカム】 【長期アウトカム】 【インパクト】



ロジックの確認 ①

【論理展開の妥当性の確認】

インプット⇒アクティビティ⇒アウトプット⇒短期アウトカム⇒長期アウトカム⇒インパクトの論理展開が妥当か以下の確認項目に従ってチェックすること。

✓	確認項目	留意点
☑	短期アウトカムが改善すれば、長期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、長期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、短期アウトカムを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。
☑	アウトプットが改善すれば、短期アウトカムが改善すると考えられるか（課題解決に必要な要素が網羅されているか）。	改善すると考えられない場合は、短期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、アウトプットを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。
☑	長期アウトカムから遡って考えたときに、アクティビティがアウトカムの改善に寄与するものになっているか（ボトルネックを解決する事業になっているか）。	寄与するものになっていない場合は、長期アウトカムから遡って考えた因果関係に基づき、アクティビティを必要に応じて修正した上で、再度確認してください。
☑	関連事業も含めて考えたときに、課題解決に寄与する事業となっているか。	他事業も含めて、課題解決に寄与する事業となっているかを確認してください。

ロジックの確認 ②

【課題解決の手段としての当該事業（アクティビティ）の妥当性】

・アクティビティの内容が妥当かをエビデンスに基づき記入する。

- ✓ エビデンスとして、他分野の既存の類似事業の実績・効果、モデル事業の実施結果等を記入する。
- ✓ 例えば、研修の開催の場合、その開催自体のみならず、対象や開催地の選定の妥当性を記入する。

効果検証方法

1 効果検証に当たっての項目整理

P：事業の対象	I：事業内容	C：比較対象	O：アウトカム
求職者	就労支援計画の策定	本事業の未実施地域における求職者	就職率

- 1 P I C Oの枠組みに沿って、どういったアウトカムについて、どのような比較対象を用いて効果検証するかを記入する。
※事業を実施する介入群と、事業を実施しない非介入群（対照群）の設定を含む。
- 2 効果検証に用いるデータや分析手法が明らかな場合は記入する。
また、上記1の効果検証が困難な場合は、代替手段や阻害要因を解決するための手段等を記入する。

2 効果検証の分析手法等

本事業の実施・未実施地域における求職者の就職率について、〇〇調査の結果を使用して、差の差分分析を実施

EBPM取組体制 (課室長クラスの方も含めること) ※別途案内するEBPM実践担当者研修 (必須研修)の受講対象者に該当	役職	氏名	内線
	課長	厚生 太郎	1111
	課長補佐	労働 花子	1112
	係長	霞ヶ関 一郎	1113
	係員	日比谷 二郎	1114

指標名		目標値（水準）の設定理由	目標達成時期の設定理由	設定した指標を算出する調査名等
アウトプット①	〇〇件数			
アウトプット②	〇〇件数	<p>アウトプットの目標水準が短期アウトカムを達成する水準であるとする理由を記入する。</p> <p>※目標値を実績値から算出する場合は、算出方法も記入</p>	<p>アウトプットの目標年度は原則として、令和6年度にする。</p> <p>目標年度を令和7年度以降に設定する場合のみ、本欄を記入する。</p>	<p>【既存調査の結果から指標を算出する場合】</p> <p>①調査名 ②調査周期 ③（今後の）直近の調査の結果確定時期（目途）</p> <p>【新規調査や新たな制度による報告結果から指標を算出する場合】</p> <p>①種類（区分） （例えば、「新規調査」「新制度による報告」等）</p> <p>②概要 概要が未定の場合は予定時期。例えば、「令和〇年度に新たに〇〇調査（報告）を実施予定」など</p>
アウトプット③	〇〇件数			
アウトプット④	〇〇件数			
アウトプット⑤	〇〇件数			
アウトプット⑥	〇〇件数			
短期アウトカム①	〇〇の割合			
短期アウトカム②	〇〇			
短期アウトカム③	〇〇の割合			
短期アウトカム④	〇〇			
短期アウトカム⑤	〇〇の割合			
短期アウトカム⑥	〇〇			
長期アウトカム①	〇〇の割合	<p>長期アウトカムの目標水準がインパクトを達成する水準であるとする理由を記入する。</p> <p>※目標値を実績値から算出する場合は、算出方法も記入</p>	<p>長期アウトカムは、当該事業に関連する法令、計画等の中間評価年度、最終評価年度、見直し年度等を参考に設定する。</p>	
長期アウトカム②	〇〇			
長期アウトカム③	〇〇			

(1) ロジックモデルの点検・助言・効果検証方法等の精度向上に係る検証

検証結果（指摘）	対応
<p>①ロジックモデルについては、初回提出時点における「問題なし」の事業の割合を高めることを目指すのであれば、政策部局にEBPMの実践を依頼する際に、事例を参考資料として提供することが望ましい。</p> <p>②ロジックモデルを作成する際には、アクティビティとアウトプットが1対1で対応していることを明示するため、項番を振るなど、記載方法を工夫することが望ましい。</p> <p>③アウトプットとアウトカムの違いは、EBPMの基礎知識として全ての省内職員が理解すべきであることから、EBPM研修やロジックモデルの記入要領の内容を充実するなど、より一層分かりやすくする工夫が必要である。</p>	<p>EBPMの実践依頼の際、ロジックモデルの好事例、事例集などを参考資料として提供した。ロジックモデル記入要領では、アクティビティとアウトプットの関係に関する補足やアウトプットとアウトカムの関係性が分かる図を入れるなどの工夫を行った。また、EBPM研修においては、アウトプットとアウトカムの関係性などについて丁寧に説明をし、受講者の理解の促進を図っていく。</p>
<p>④効果検証については、既存のデータをどの程度使用できるかによって、アウトカムの設定自体が変わると考えられる。また、アウトカムの設定の前提として仮説を立てる際にもどのようなデータが活用できるかが重要である。</p>	<p>ロジックモデルの点検時や政策部局に対するヒアリング時などの機会を捉えて、既存のデータとともに、今後取得可能なデータの状況を的確に把握し、その上で、リサーチデザインの支援をしていく。</p>
<p>⑤リサーチデザインの作成に当たっては、どの程度の厳密な効果検証が必要となるか検討しておくことが必要である。その際、処置群と対照群の設定が重要となるため、リサーチデザイン支援を行う際には留意すべきである。</p>	<p>リサーチデザインの支援に当たっては、事業内容も踏まえながら、どの程度の厳密な効果検証が必要か確認するとともに、可能な範囲で処置群と対照群の設定について提案していく。</p>
<p>⑥効果検証対象事業は、事業実施後に効果検証ができるよう、あらかじめリサーチデザインを作成しておく必要がある。また、実際に効果検証を実施する段階で、ロジックモデルの記載内容どおりに実施できるかどうかについて確認が必要である。その際、データが取得できなかった場合の代替手段も検討が必要である。</p>	<p>効果検証対象事業については、事業実施後に効果検証ができるよう、引き続き、リサーチデザインの作成支援を行う。また、年2回実施しているフォローアップの際に、ロジックモデルの記載内容どおりに効果検証が実施できるか確認していく。その際、分析に必要なデータが取得できなかった場合の代替案を提案するなど、適切なリサーチデザインの支援を行っていく。</p>
<p>⑦効果検証が当初の予定どおりに実施できず、ロジックモデルを修正した場合は、ロジックモデルがどのように修正されたかという記録を残すとともに、効果検証が当初の予定どおりに進まない理由も記録しておくことが望ましい。</p>	<p>効果検証対象事業については、年2回実施しているフォローアップの際に、ロジックモデルの修正の有無を確認するとともに、修正履歴を記録していく。</p> <p>また、効果検証が当初の予定どおりに進まなかった場合は、その理由を記録するとともに、必要に応じて代替案を提示していく。</p>
<p>⑧過年度の効果検証対象事業については、3年スキームの終了段階でこれまでの取組をどのように総括するか検討することが望ましい。</p>	<p>令和2年度の効果検証対象事業については、令和5年3月末をもって3年スキームが終了することから、アウトカムの達成状況やEBPMの実践を通じたデータの活用状況、効果検証の実施状況などを取りまとめ、3年スキームについて一定の評価を行う。今後、効果検証対象事業の事例を蓄積し、3年スキームの総括の仕方について、更に検討していく。</p>

(2) 次年度のEBPMの実践に向けた検証

(ア) 事業のスクリーニング基準(選定基準・除外基準)に係る検証

検証結果(指摘)	対応
重点フォローアップ事業の選定基準のうち、データの取得可能性については、既存のデータのみならず、今後、取得できるデータやランダム化比較実験(RCT)のような検証で得られる実験データなど、多義的に使用されるものが含まれることから、用語の使い方に検討の余地がある。	有識者検証会の資料作成に当たっては、特に多義的に用いられる用語を使用する際は、解釈の誤解が生じないように用語の定義を合わせて記載するなどの工夫をしていく。

(イ) 予算過程での反映方法に係る検証

検証結果(指摘)	対応
予算過程でのロジックモデルの活用については、ロジックモデルを説明する側だけでなく、会計部局など説明を受ける側の方でもロジックモデルに対する理解を深めることが望ましい。	予算過程でのロジックモデルの活用については、ロジックモデルを説明する側・説明を受ける側問わずロジックモデルに対する理解を深めていくため、EBPM研修の積極的な受講を促すとともに、必要に応じて会計課職員向け説明会を開催していく。

(ウ) 事後の効果検証スキーム等の精度向上に係る検証

検証結果(指摘)	対応
効果検証の取組の課題のうち、短期アウトカムの分析については、時間的リソースが不足していることが大きな要因と考えられる。このため、3年スキームの中で成果を出すことや、効果検証に割くことができる時間が限られていることなど、時間的リソースの制約をどのように回避するかが重要である。	時間的リソースの不足については当省における慢性的な課題であるため、容易に解消することは困難であるが、効果検証の実施に当たっては、引き続き、民間事業者を活用し、効果検証対象事業の分析支援を行うとともに、リサーチデザインの提案に当たっては、厚生労働科学研究費補助金などの外部リソースの活用なども促していく。

(エ) その他EBPMの取組に関する全体スキームに係る検証

検証結果(指摘)	対応
①EBPMをより一層推進するに当たっては、レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)など様々な行政記録情報を活用していくことが重要である。一方で、事業担当課室においては、活用可能なデータを認知していないケースがあるため、行政記録情報の所在情報について情報共有を進める必要がある。また、行政記録情報を定量的な分析に活用するためには、データ整備にも注力することが望ましい。	省内の統計改革の一環として、行政記録情報の二次利用についても検討を進めていく予定である。厚生労働省の統計等データの所在情報については、一覧にまとめたものを定期的に更新し、HPに公開しており、引き続き、政策部局への周知を行うとともに、EBPMの実践を通じて、行政記録情報のデータ整備や活用など促していく。
②EBPMの取組の中で実施した効果検証のうち、学問的価値がある分析については、論文にして広く公開することなどを通じて、官学のコミュニケーションの新たな方向性を打ち出していくことが望まれる。	EBPMの実践を通じて実施した効果検証については、有識者検証会の資料やEBPMの推進に係る若手・中堅プロジェクトチームの分析レポートとして厚生労働省HPに公開しているが、学問的価値がある分析などの事例が蓄積された際には、公開方法などについても検討していく。